

## 2006 年度

### 2006 年度役員

会長	遠藤 彰
チーフリーダー	上野 午良
サブリーダー	尾崎 宏和
学生リーダー	島田 悠彦
会計	山田 裕久
記録・会報	尾崎 宏和 灘吉 聡 島田 悠彦
装備	灘吉 聡
ホームページ係	灘吉 聡
西高係	山野 裕 福村任生
都岳連関係	上野 午良
超 OB 係	林 武志

## 2006 年度 山行記録

---

### 0601 北八ヶ岳：天狗岳西尾根

【期日】2006. 4. 1(土)～2(日) 【参加者】島田, 福村, 中山

---

やはり先行パーティーはなく人に会いませんでした。1 日は静かな晴天で予定どおり西尾根にあがり幕営しました。

2 日は稜線上終始強風雪あられ、視界ときにかなり悪く西天狗からはホワイトアウト的状况になり、短いながらもコンパスを信用してくだりました。東天狗黒百合間も視界悪くルート選びを少し慎重にやりました。中山君はゆっくりでしたが、立ち止まらず(アイゼン装着時も)一步一步進んでいました。稜線の 3, 4 時間は景色がなかったかわりに、はじめてにしてはなかなか厳しい面を知ってもらうことができたかもしれません。福村君にはだいたいの部分でトップを歩いてもらいました。おかげさまで 3 人ともよい経験を出来たのではないかと思います。(島田)

---

### 0602 上越/ST：蓬峠 (宝川温泉への計画敗退)

【期日】2006. 4. 8(土)～9(日) 【参加者】: 尾崎, 灘吉

---

#### ◎尾崎 記

今年の冬は生半可ではないようだ。昨年はずただの雪尾根だった蓬峠から足拍子への尾根が雪稜になっていて、稜線に立つと同時に目も明けられない風雪とホワイトアウトで前進は不能。稜線の風下側でブロックを積んで幕営すると、テントの片側でっぺんまでいきいきに吹溜ってしまう有様。寝る前までに何度か、そして朝一番に除雪を強いられる(次ページ写真)。

下山時は蓬峠から支尾根に乗ること、その尾根を外さないこと、適切な位置から左斜面の尾根に入ること、見えていれば何のことはないのに、微妙な尾根筋の屈曲や傾斜、登りの時の感じを確かめるべく何度も振り返り、何度も地図を広げる。ホワイトアウトと強風のもとで、その地図をしまうのも難しい、困難なルートファインディングであったが、きっちり外さず戻ってきた。多少の困難も灘吉君とならどうにでもなる、という安心感はとても心強かった。

快適な山スキーを目指したし、宝川へのルートは魅力的で残念だったが、こういう経験もまた役に立つのでしょう。甘かったとしかいいようがないのだが、そのかわり、復路後半はバーズン

パウダーを楽しむことができ、「トップを浮かせて滑る感覚」を味わえた。下山後晴れて、見えた谷川岳は4月とは思えない雰囲気だった。

今回の山は2月の山行みたいな気分です。北アルプスなどで遭難が相次いでいますが、春山気分は禁物ですね。2回連続の敗退。後から計画自体もっと考慮できたのではと思っても、行く前には憧れのルートに望みを託してしまう。次回のゴールデンウィークこそは！

### ◎難吉 記

色々大変（後述）でしたが、ホワイトアウトでの歩行、新雪でのスノボ、強風等 貴重な経験ができました。

あんなに視界の効かないホワイトアウトは初めてで、見えないというか、むしろ幻想が見えてちょっと危険な思いもしました。地図を見る&たたむにも苦勞する強風の中で、地図の防水加工、磁北線を引いておくことの必要性を感じました。

新雪のスノボは尾根上では有効でしたが、谷に下りてからの緩斜面では進まずに苦勞しました。（遅れて迷惑掛けました）結局アイゼンは使いませんでした、テン場でアイゼンを紛失してしまいました。基本を疎かにして袋のまま置いておいたのが失敗です。

8日 雨→雪→吹雪、9日 吹雪→くもり

コースタイム：

8日 13:29 土樽を出たときは雨でしたが、雪に変わる。

1544m ピーク近くに風を避けるようにテントを張る。

9日 9:08 朝になっても前日からの吹雪がおさまらないため、しばらくテントで待機していた。テントの裏側、入り口側は吹き溜まりになっていた。まずは雪かきを行う。

13:10 予定は土樽～蓬峠～清水峠～朝日岳～雨ヶ立～宝川温泉だったが、強風のため断念し土樽に引き返す。樹林帯に入るまではホワイトアウトだったので歩く。視界がきくようになったのでスキー（ボード）にチェンジ。

13:14 30cm以上の新雪の中を滑る。日帰り山スキーの人のトレースがあったので、ルーファイには苦勞しなかった。

15:29 この時間になって、やっと晴れてきた。

15:51 JR清水トンネルの出口付近にて。去年の大源太コブ岩尾根と雪の量を比較すると・・・、雪が多いことがわかる。

今年は雪に埋まって頭だけが出ていた。（難吉）



埋没防止作業中



新雪滑降

## 春山合宿 2006 縦走組

## 0603 上越/VR：武能岳西尾根～七ッ小屋山～朝日岳～白毛門

【期日】2006.5.3(水)～5(金) 【参加者】 山野, 島田, 福村

## ◎ 今回は疲れた 山野 記

2年ぶりの山でした。天気はよく、景色も満喫出来る山でした。久しぶりに命の洗濯をした感じでした。でも20代の人に合わせて歩くのはホントにしんどかったです。歩くスピードが落ちてますね。芝倉沢が出会いから真っ黒だったのはびっくりしました。連休には上までキックステップで登るいいコースだと思っていたのですが、今年は雪の多さが原因しているのでしょうか。

上遠野さんの別荘では食事と温泉の風呂をご馳走になりました。雪で崩れた屋根の補修を手伝わされましたが。宝川温泉のあたりをヘリコプターが飛んだり救急車が走っていたので尾崎、灘吉組を少し心配し、沼田警察に電話したり、宝川温泉の少し先の林道を見に行ったりしましたが、バスでちょうどすれちがったのですね。つりの人にボードとショートスキーの人が降りてくるのに出会ったと聞いて引き返しました。

## ◎ 楽しかったです。福村 記

今回は天候に恵まれ、残雪の山を満喫できました。誘ってくださった皆様に大変感謝しております。ロープワークの練習ができたのも大変良かったと思っています。実は昨年秋から半年間、山を休んでいたのですが、前回(4/1～2)の天狗と今回の上越で、やっぱり自分は山登りが好きなんだと再確認しました。今回は心身共にリフレッシュされたようで、あまり疲労感もありません。充実した3日間でした。

## ◎ 記録と感想 島田 記

3日は蓬沢を雪橋で渡った後、尾根にのっかるために取り付きで30mくらい土壁をのぼる。ヤブと雪面が何度か交代するうちに高度を稼いでいる。尾根上1500m程度で幕営をきめたおかげで、ロープワークの練習ができた。プラスにとらえれば支点、ビレイの原則がよくわかってなかったのがわかって特によかった(動作にやたら時間



初日の幕営風景



武能岳頂上 万太郎山・仙ノ倉バック



ました。天気もよく快適に滑ることができ4月のリベンジが果たせました。

### 5/3 :

始発を乗り継いで土樽へ。1ヶ月前と比べて大分雪が減っていた。スノーブリッジを渡って西尾根取り付く。藪だったがそんな苦労も無く進んでいく。途中、鹿？が死んでいたのにはびっくりした。天気がよく暑い、雪が出てからは快調に進んだ。時間的には蓬峠まで行くことも可能だったが無理をせずテントを張った。時間があったので、簡単にロープワークを実施した。夕食はカレー、美味しく食べた。

### 5/4 :

アイゼンを付けて出発。雪を伝って尾根を進んだ。ザイルを出す危険な所もなく、意外とすんなり尾根まで出られた。武能岳をアタックしてから蓬峠を目指す。蓬峠でスキー組はスキーを装着。セツ小屋山手前で縦走組と分かれて、今回初の滑走。気温が高く雪が緩んでいるが、快適に滑れた。シール登高で清水峠まで登り返すと、縦走組が30分前に着いていた。清水峠から1P登った所で縦走組とお別れ。テント張ってから軽い装備でスキーを楽しむ。思い思いに滑って登り返すと、谷には2本のシュプールが見下ろせた。



大源太山に沈む夕日

### 5/5 :

朝はゆっくり。雪上と夏道を行ったりきたりしながら大鳥帽子への分岐へ着いた。朝日岳をアタックしてから谷へ滑りこむ。大斜面にたった二人、思い切り楽しむことができた。再び登り返して、鞍部から尾根を越えて、板幽沢に滑りこむ。谷が狭くなり、沢の音も聞こえ出す。最後は沢筋を離れて、林の中を滑り林道に出た。1P強歩いて、宝川温泉に到着。山間の温泉とはかけ離れた温泉でちょっと興ざめだった。

### ◎ 尾崎 記

参加の皆さんありがとうございました。島田君や福村君と武能西尾根など行けて、とても良かったと思います。山野さんには御心配をかけ申し訳ありません。

スキー組は登り返しも多く、けっこう疲れました。滑りのスケールは去年の雪倉よりも小さいとはいえ、去年とは違ったすごさがありました。

5/3 :

土樽から 1 時間、西尾根取り付き直下の堰堤下でブリッジをわたる。1 時間半ほど薄いヤブをこぐと快適な雪尾根となる。見下ろすと渡渉点は他に無く正解。1500m 付近で幕営。ロープワークの練習。

5/4 :

翌朝はアイゼンで稜線を目指す。稜線直下は笹藪だが、とくに困難はない。道の無い尾根から稜線に立つのは爽快。正面に見る芝倉沢はブロック雪崩どころか泥流と化している。自然現象は人間の想像を絶する。

七ッ小屋山からスキー組は湯檜曾川右岸台地へ滑降。清水峠に登り返して歩き組と合流。朝日岳目指すと目の前に湯檜曾川源頭斜面が広大なスロープで迫る。スキー組、1 時間ほどで幕営決定、歩き組と分かれる。快適斜面を滑降、清水峠手前まで行って先ほどのルートを登り返して帰幕、15:00。

5/5 :

暖かい朝。計算済みの寝坊で出発。朝日岳往復の後、ジャンクションピークからナルミズ沢源頭を滑降。圧巻の大斜面。これだけ雪があるのに、描かれたシュプールは先にも後にも？たったの 2 本。

1350m 地点から雨ヶ立への尾根へと 1 時間登り返す。宝川目指して滑降。降りついた宝川本流は激流となっている。がんばってたどり着いた宝川温泉は…あまりに場違いな観光温泉でした。

---

## 0605 北アルプス/ST : 槍沢～槍ヶ岳

【期日】 2006. 5. 4(木)～6(土) 【参加者】 加藤

---

### ◎ 2006 年 GW 山行 槍ヶ岳 加藤 記

最近忙しく春合宿には乗り遅れましたが、3日夕方の天気予報を聞いてあまりに天気よいので、矢も楯もたまらず急遽小屋止まりで北アに行くことにしました。白馬～鱧温泉も考えましたが、針ノ木で雪崩事故があったばかりなので、槍沢にしました。以下簡単な記録です。

3日は午後10時調布発で、1時沢渡着（車泊）。

4日は9時すぎに上高地を出て、槍沢ロッジに3時着。時間があつたのでロッジより200mほど登り軽く滑る。ロッジ泊。なんと風呂に入れました。北ア南部も残雪が多く、横尾の手前から雪があり、横尾よりスキーを履きましたが、一ノ俣～槍沢ロッジ間は沢幅が狭くほぼ登山道どおりに進んだので、背負った方がよかったかも（帰路は背負いました）。

5日は5時にロッジ発、10時半に槍ヶ岳山荘着。槍の穂先は所々凍っていて初心者に待たされけっこう時間がかかりました。脚がつりかかっていたので大休止した後、1時に滑降開始、2時ロッジ通過、6時半に上高地着。シャトルの最終は6時なのでタクシーで沢渡に。

午後の槍沢は雪がグズグズでターン途中ですぐに土手ができてしまい、快適なスキーではなかった。新穂高から飛騨沢を登って槍ヶ岳山荘泊、朝雪がゆるみかけたところで、滑降するのが正解でした。山スキーMLの情報によれば、飛騨沢ルートも穂高平まで雪があつたとのこと。そういえば、帰路、徳沢～明神間で熊に会いました。道から4～5mのところだったので、ソロリソロリと通過。すでにカメラをザックにしまっていて写真を撮れなかったのが残念。

## 0609 南大菩薩/WC： 滝子沢左俣

【期日】 2006. 7. 2(日) 【参加者】 尾崎, 島田

## 【コースタイム】

初狩 8:00-甲州街道-入渓点 9:45-スラブ滝上 13:45-15:00 滝子山 15:25-17:10 初狩

## ◎島田 記

滝子沢自体の印象としては、滝のでている部分は長くなく本当はあつという間なのかもしれないと思われませんが、実際は時間を多くとってもらってセカンド確保とトップ確保の基本動作の練習ができました。

岩トレは学生の希望者がなく 6 月には実現できませんでしたが(学生も巻き込めればとも思いますが)、島田は 2 年ぶりの沢でこの機会に行けて良かったです。尾崎先輩お忙しいなかどうもありがとうございました。



12m スラブ滝

## ◎尾崎 記

思った以上に疲れました。島田君は練習になったかな。個人的には山以外の事でいろいろあって、場所を変えて山で考えようと思ひ、それが少しできました。そういう意味でも、よい山行でした。ただし入渓点は砂防ダム工事と林道で破壊されていて残念。核心と言われるスラブ滝は緊張して臨んだせいか、さほど難しさを感じなかった。その後、詰めのスラブは良くないながら、それさえ抜ければツツジ科の明るい疎林の中快適でした。結果的に天候にも恵まれ、シャワークライムが快適でした。

トーレーニング山行 Part II

---

0610 奥多摩/WC : 一之瀬川竜喰谷

【期日】 2006. 7. 22 (土) 【参加者】 青谷, 尾崎, 島田

---

【コースタイム】

石楠花橋 8:45-10:00(10m 幅広ナメ滝後)10:10-11:00(10m 曲滝高巻後)11:10-12:45 (1480m 二俣) 13:05-14:50 石楠花橋

◎島田 記

山野さん、緊急連絡先ありがとうございました。

水勢はかなりあった(例: 竜喰滝出合にある本流の“小滝”は豪快な流れになっていた)。12m 下駄小屋ノ滝はへつって左壁をいくと問題なかった。8m 多段滝はなんだか面白かったが直上部で、島田は(実は不要な)無理なジャンプをして転倒しそのあと左膝が痛んで少し困った(ご心配おかけしてすみませんでした)。10m 曲がり滝は水流中をいくのが大変そうな水量事情だったので、右ルンゼから大高まき気味で越えた。2 段 8m2 条滝は文献の“中央を直登”がこれも水量的に不自然な感じになっていて、右壁の窪みから登った。滝の核心部では難しそうかなと思ってみると、先輩方が易々と突破され、マネしてみるとホールドがたくさんということが結構ありました。

流れがまっすぐなところできどき晴れ間にあたると、木々の葉が明るく透けてなかなか美しかった。1480m 二俣で遡行をほぼ終了とし、しっかりした林道まではすぐ至り、やがて峠への道に合流し下山へ。1500m は十字路的分岐で沢すじ的な道を選ぶと二之瀬のやや北にでた。(島田)

◎尾崎 記

長雨の影響で予想に違わず水量がすごく、釣り人によれば通常の 2 倍とのこと。水も非常に冷たい。一之瀬川の渡渉からして厳しかった。最初から腰までのへつりに体が冷える。

曲がり滝は下部からそれなりのシャワーライミングになりそうで、落ち口は奔流に押し流されること確実。残念ながら高巻きとなる。この高巻き、滝すぐ下の左岸からルンゼを登ったらいやらしかった。

あとは特に何も無い。当初は片品川源流を計画しただけあって、不完全燃焼。

## トーレーニング山行 PartIII

## 0611 八ヶ岳/WC：地獄谷本谷～ツルネ東稜下降

【期日】2006.7.30(日) 【参加者】尾崎

## 【コースタイム】

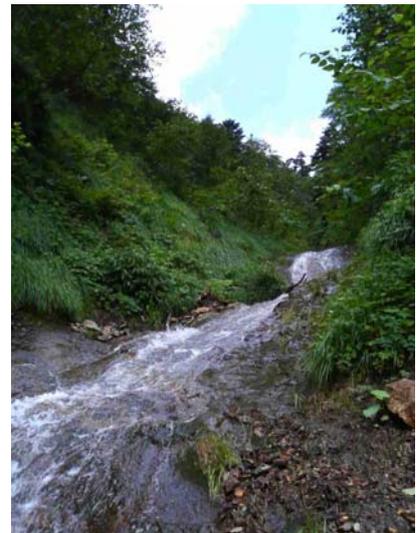
清里(6:40)-(8:50)出合小屋-(9:35)30m滝手前-(11:03)キレット小屋水場-ツルネの頭(11:44)-(12:10)R-(13:04)出合小屋-(13:54)林道(14:02)-(15:15)清里

先週の沢が不完全燃焼だったので、夜行日帰りで地獄谷本谷に行ってきた。登山大系いわく「余裕をもって登れる沢」とのこと。

原始的に清里から清里まで全部歩き。冬に数度訪れたことのある地獄谷だが、夏はヤブが茂っていてすっきりしない。というわけで出合小屋より手前から沢足袋に履き替え水の中を行くほうが快適。赤岳沢出合、旭東稜取付、ツルネ東稜末端と、冬にきた時の雰囲気からすぐわかった。沢の方はきわめて楽勝といたいところだが、1ヶ所、「30m大滝」は判断しづらかった。持参資料は登山大系とネットのコピー。カゲ沢をすぎて滝場を快適に越してゴルジュとなると、落差8mほどか、大チョックストーンのオーバーハング滝が現れる。「30m滝」というにはかなり苦しい。左のカンテから行くには高度があってレベルも高そう。ゴルジュ手前の右斜面から行くのか、登山大系に書いてある「すぐ手前の支流」など見当たらない。枝沢に入ったか少し不安になっていったんカゲ沢まで戻った。

しかし正しいようで、気を引き締めるためハーネスをつける。誰も確保はしてくれないけれど…。もう一度行って手前右斜面をよーく観察した。すると古く黒ずんだ赤テープが右寄りの小木に付けられていることを発見し、やはりここかということで高巻きとする。少々微妙な登りとトラバースは、初心者には確保が必要との印象だ。「30m大滝」はこのチョックストーン滝の奥にあるのかもしれない。

その後は梅雨明けの陽射しのもと、美しく快適な滝をいくつも越してゆく。左俣を分け、おもしろい滝はなおも続く。一見難しそうでもよくラインを読むと直登できる滝ばかりだ。枝沢をいくつか分け源頭の様相となると、ひょっこりキレット小屋の水場に出、踏み跡数分で小屋に登りつく。あたりはコマクサが満開だったが、北アルプスのコマクサにはかなわない(キレット小屋の御主人さんごめんなさい)。



上流部のナメ滝

ツルネの頭 11 時半過ぎ、赤岳も権現も怪しげなガスに巻かれており、今朝小淵沢駅でツバメが低空飛行していたこともあって天気が心配となる。元気があれば、時間的には権現を越えて小淵沢まで行くのも可能だし、充実しそう。だが今回は計画を出していないこともあり、ツルネ東稜へ。途中 2 箇所ほど右の尾根に入りそうなところがある。基本的に踏み跡とマーキングが続いているので、これが途切れたら現在地を疑う必要がある。出合い小屋には 13 時、清里まで歩いて 15 時 20 分。まずまずの山行だった。

## 0612 東北 白神山地：白神岳

【期日】 2006. 8. 9 【参加者】 上野(利) 他 2 名 (松田氏、大 中氏)

大学時代のワンゲル同期で実施。

前日はコテージやキャンプサイトが整備されている十二湖キャンプ場で前泊した。

キャンプ場まで車で入れるので、キャンプのみのグループや白神岳登山のグループと入り混じっている。よってキャンプのスタイルも、本格登山的なものからオートキャンプ的なものまで様々。その日は大学のワンゲルが 6～7 張あり、総勢 20 人以上。構成員数が少ないと言われ続けている山系のサークルであそこまで人数多いのはうらやましい限りである。持参した七輪でサンマ、ホタテ、シシヤモ+ビールで夕食。やはりバーベキューでは肉ではなく魚であるべき事を確認した。特にサンマはまた実施したいと思う。21:30 頃就寝

### 8/9 晴れ

白神岳登山口 0730-0920 マテ山 0945-1150 白神岳 1200-1505 白神岳登山口

- ・ 標高 1100m までは樹林内。尾根上でも展望いいのは 1100m 以上。
- ・ マテ山コースには途中水場が 2～3 箇所あり。
- ・ 二股コースは水場豊富。ただし登山道は十分な整備はなく、若干藪こぎ必要。登りは踏み跡が識別しやすいが下りは踏み跡見失う可能性あり、要注意。
- ・ 白神岳避難小屋は、10 人くらいは泊まれそうな小屋。

### 以下詳細

十二湖キャンプ場に忘れ物をしたので出発時間が遅れる。白神岳登山口からは、尾根沿いの「マテ山コース」と沢沿いの「二股コース」がある。暑い夏の日には、水が豊富な二股コースでも良いかもしれないが、常に軽い藪こぎが必要らしいので、地図読みが不安ならば「マテ山コース」が無難。今回も「マテ山コース」を選んだ。

日差しがとても強く、しかも無風。今回は、結果的に一人 3L 程度の水が必要であった。マテ山まではトラバース気味に続く登山道。松田氏が皆を引っ張る。松田氏は地下足袋装着で挑んできた。やはり地下足袋は足取りが軽い。マテ山までに 2～3 箇所固まって水場がある。その年の降水量により水が涸れる事がある。最後の水場を過ぎたらもう一踏ん張りでマテ山直下の分岐。分岐からマテ山までは 5 分弱。マテ山そのものは樹林に囲まれた三角点に過ぎなく展望は全くな

い。ここで大中氏が、日ごろの運動不足によりリタイヤ宣言。学生の際はラッセルマシーンと呼ばれていたが、車通勤の事務・営業職になってからはその影はなくなってしまったようだ。

マテ山分岐からは2人で尾根上を歩く。しかしながら標高 1100m までは樹林の中で、標高 1100m 以上でようやく展望が開ける。同時にところどころお花畑地帯も見られる。しかしかなりの暑さで、植物観葉の余裕すらなかった。

白神岳避難小屋は頂上直下にある。まだ新しく快適な小屋。小屋内にあったメモでは、頂上から 70m 下ったところに水場があるらしい。が、煮沸必要ということで、100%充てに出来る水場ではなさそう。小屋隣には、トイレがあるがあまりにも立派なので最初はトイレが小屋かと思ってしまうほど。

白神岳のプランとして日帰り以外には、避難小屋泊で頂上で日本海に沈む夕日を眺めるパーティも多い。特に往復が嫌な人は翌日に十二湖の方に向かうコースがよく選択されるとのこと。

上記の十二湖から白神岳に来るコースから縦走してきた人から話を聞くと、①マテ山コースより人は入っていない。②道はそれなりにきちんとしているが、虫（特にアブ）が段違いに多いとの事。

頂上で 30 分ほど休憩し、往路を下る。下りでは、地下足袋よりも登山靴が有利で、自分が下りで TOP を務めた。

暑いため休憩を多くとったため、予定より多めに時間がかかり下山した。

下山後、不老不死温泉に。

不老不死温泉で大中氏と、秋田で松田氏と別れ、復活したばかりの羽越本線：寝台特急あけぼので帰宅。

## 西朋 HP から

---

テント内でコンロ 投稿者：高橋（40 期） - 2006/08/13(Sun)

キャンプ協会が注意喚起しています。

今まで意識していませんでしたが、ガスコンロで一酸化炭素中毒の危険があるのですね。でもテント内で使えないというのは、実質ありません…。換気さえしっかりしていれば問題ないように思いますが、詳しい事をご存知の方がいらっしゃいましたら、教えて下さい。

それから雷の処理について、どうも楽天的な気がします。（私の参加していた時だけかもしれませんが）今年には町中でも落雷事故がありましたので、山ではもっと慎重になっても良いかと思えます。

古い話ですが兎洞沢詰めた時、雷雲の中避難小屋まで向かっていましたが、あのような状況では、森林限界以下で待機もしくはビバークすべきと考えます。今年は大気も不安定な感じですから、くれぐれも判断は慎重をお願いします。

近況ですが、今年始めに患いました椎間板ヘルニアは完治しまして、先週仕事で山小屋一泊で八幡平の三ツ石湿原へ登ってきました。今年には仕事も忙しいので、秋までは動けそうもありません。ですが、ボチボチ沢も恋しいので、秋にザイル無し程度の日帰り沢なんぞに復帰したいと思います。夏合宿は安全に気をつけて下さいね。今年にはきっと残雪が多いと思いますよ。

---

No. 2097 テント内のコンロ 投稿者：上野（48 期） - 2006/08/13(Sun)

一酸化炭素中毒とまではいかないですが、テント内で酸欠に出くわした事がありました。高二の春合宿で、起床後の飯炊きでどんなにやってもライターの火がすぐに消えてしまうなあと、思っていたら、テントの入り口を開けた途端に勢いよく火がつき始めた事がありました。

- ①新品のテントで、朝は結露でフライシートと本体がべったりくっついていました。
- ②5～6 人用テントに 6 人と、ややすし詰めで寝ていた。
- ③後日、息苦しいが我慢して寝ていたという感想があった。

→ベンチレーターがあっても、テント内換気は十分ではなく、睡眠時の呼吸程度でも酸欠になる。  
という事がわかりました。

高橋さんのリンク先にもありましたが、フライシートや本体が濡れてしまう状況だと注意が必要ですね。調理時に意識的に入り口を開ける必要があるかもしれません。特に新しいテントの場合。

なお、大学時代はボロボロのエスパースを使用していたせいか、厳冬期でも酸欠という事は全くありませんでした。

---

No. 2098 換気に注意ですね 投稿者：高橋（40 期） - 2006/08/14 (Mon)

そうですね、ともかく換気に注意ですね。冬期では夜中にテントが雪で埋もれて酸欠っぽくなる事がありますが、常に酸欠を意識しておく事が重要ですね。

しかし、現実問題としてテント内で使えないと困りますから、「使うな」というメーカーや協会の姿勢には疑問です。まるで、「ナイフは危ないから料理には使うな」と言っているみたいで、実情やその道具の使われ方を無視した保身のコメントと見えてしまいます。

## 夏山合宿 2006

## 0613 虎毛/WC: 荒雄川西ノ股沢～皆瀬川春川本谷～虎毛沢下降～赤湯俣沢

【期日】2006. 8. 12(土)～16(水) 【参加者】松本, 加藤, 尾崎, 島田

## 【コースタイム】

- 8/12 鳴子温泉=(タクシー)= 鎌内林道入渓点 8:25～9:18 西ノ股沢出合 9:30～12:00 R～稜線～  
17:55 東ノ又沢 680m 地点
- 8/13 発 7:00～懸垂後 8:15～8:31 三ッ滝～10:15 万滝沢出合～10:21 ゴルジュ手前 R～12:00 20m  
滝巻き後 12:14～13:54 785m 地点三俣を左沢へ間違えて下る～15:40 ダイレクトクーロアール  
取付
- 8/14 発 6:20～8:41 大滝手前～大滝上 12:30～13:58 R～15:25 R 15:43～16:07 虎毛山頂
- 8/15 発 5:50～6:07 虎毛沢右俣下降開始～6:32 R 6:48～8:57 R～10:26 R～560m 枝沢 12:40～13:31  
赤湯又沢出合～15:00 噴気地帯～15:45 670m 温泉地帯
- 8/16 発 5:50～6:20 左右俣手前～7:41 920m 7:59～8:55 R～9:51 稜線 10:06～10:23 高松岳 10:35  
～12:00 湯ノ又温泉 13:00=(タクシー)=横堀

## ◎ 一足先に下山したので簡単に報告します。(加藤 記)

近年になくザイル使用の多いハードな沢登りになりました。

初日は、保呂内沢西ノ股沢を溯行。尾根を乗り越して春川に下降。途中から巨大なスラブの下降となり 40m の懸垂を 3～4 回 (+α) して東ノ又沢に降りたところで幕営。

二日目は 2 時間ほどで春川に出て、本流を溯行。ダイレク  
トクーロアール出合手前で幕営。

三日目は、難易度など総合的に判断してダイレククーロアールを避け、本流を溯行。本流もなかなか手強く、2 本のザイルをめいっぱい使用。大滝手前でスノーブリッジをくぐり、大滝後に雪渓(100m くらい?)の上を歩く。最後の藪こぎもかなりハードでした。時間切れで虎毛山頂の避難小屋泊。

四日目。松本さん以下 3 人は予備日を使って計画を続行(虎毛沢を下降して赤湯又沢へ)、加藤は 16 日に所用があるため(体力的にも限界でしたが)秋の宮温泉に下山しました。



岩魚の刺身をつくってくれる

## ◎ 庄巻の夏山合宿

下山は 1 日遅れてご心配おかけいたしました。計画したダイレクトクーロアールはやめて春川本谷を行いました。他は、計画完遂です。

初日、鳴子温泉に集合した時は小雨がぱらつき近くの川も水量が多く少し心配な幕開けとなる。釜内林道の入渓点に着くと天気はまずまず。小さな峠越えで保呂内沢に入り、川歩きをして西ノ股沢に入る。少し行ったところの滝は左斜面を大きく巻く。その後地元の釣り人と相前後し、岩魚の刺身を踊り食いで御馳走になる。絶味であった。

12 時頃から雷雨模様となる。奥の二俣より下流で、右からヤブっぽい枝窪が入っている。我々はこれを二俣と間違えた。続く二俣は右俣の方が河床が広くて低く、水量も雨のせいも多く、直進する。しかし、すぐに沢の傾斜が急になり、右へ曲がっていく。引き返して左俣へ入り、窪になるまで詰め、右へ数歩で稜線に乗る。猛烈な笹藪だが反対側に少し下れば薄くなる。現在地の判定には少々迷ったが、そのまま下って東ノ俣沢源頭部の急斜面へと降りる。

草付きスラブから 30m の懸垂下降が連続 3 回、2 段の滝を一緒に懸垂下降 20m、さらに赤茶けた滝を 35m 弱の懸垂下降でようやく穏やかとなる。二俣上の 680m 付近に適地を見つける。初日から精神的にもロングだった。昼からの雨のせいか、何度やっても焚き火に火はつかなかった。



ついに春川本谷三滝。加藤 島田 松本

二日目。昨日頑張ったこともあり、今日どこまで行くかが今後のポイントとなりそうな予感。タープでの夜明けは寒かったが、天候は抜群の朝である。夏山日和に後押しされて、足取り軽く下降を開始する。穏やかな流れが急に前が開け、この先数メートルは微妙な小ゴルジュで大滝落ち口となっているようだ。ここは松本さん先頭に右岸の巻きに入り、約 35m の懸垂下降で突破する。そこはまさに Vertical World. 巻きルートは滑りやすく、なかなか高度感もあって注意を要した。



亀甲模様を溯行

懸垂後ほどなく春川本谷へ合流する。本流と西ノ俣沢が豪壮な両門ノ滝を成しており、夏の太陽に明るく輝いている。記念撮影

の後、本流の滝の左に取り付く。いよいよアプローチが終了し、本山行の中核部分へと入る。本流の滝は直登は微妙な一歩があり、左の灌木頼りに乗り越える。後続はハーケンを打って確保しながら直登した。

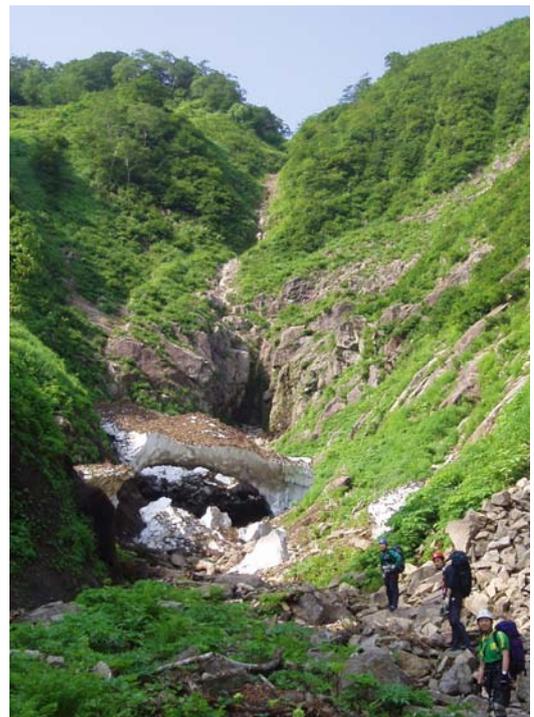
亀甲模様の美しい？ナメを愛でながらの溯行。この赤模様は美しいというよりも不思議だし、なにやら気持ち悪くも感じてくる。そしてその上を岩魚がすいすい泳ぎ回っている。

585m の屈曲点をすぎると行く手に虎毛山の斜面が見渡せる。奥の陰谷とはうって変わって平凡な万滝沢出合を過ぎた所でレスト。本谷もここからゴルジュと釜が連続する。腹ごしらえして早速、泳ぎをまじえて釜から槌状の滝を突破。だだっぴろいナメ滝でつながる釜と滝をロープを出して越えていく。虎毛沢左俣に乗越せる支流を右に分けると 10m 滝を右岸、すぐに 20m 滝を左岸に巻く。



微妙にロープの欲しい滝が連続

その後、地形図で三俣の付近は信じられないくらい緩やかになる。その三俣は、地図では右俣がわずかに先に入るように思えた。実際の流れも三俣でなく二俣(×2)となったため、左に入るが、水量は一気に減り、すぐに来るはずの次の二俣は現れず、傾斜も急になってしまう。流れの方向からは判断は微妙だが、どうもルーファイミスらしい。フリーで登れた 2-3m ほどの滝もロープを出しつつ下り返し、下に戻った。改めて見返せば左俣はどうにも支流に見える。右俣に入ってわずか十数メートルで次の二俣。すかさず左へ進路を取るが、先ほどの間違えた沢との間の尾根はとても低く、狐につままれたような感覚を得る。



大滝手前のスノーブリッジ

小さな滝を越して兩岸狭まると、ナメの奥に直登不能の滝がかかっている。兩岸ともに巻きは大きくなりそうで、とくに左岸は右岸以上に灌木帯まで高度差がある。しかし左岸は灌木帯がテラス状の緩傾斜になっているように見え、少し戻ったところから急斜面を這い上がる。予想通り！そこには緩傾斜帯が伸びている。縁から下方をのぞきつつ 100m ほど進み、次の滝が樹間に見え隠れした後、明確な窪を伝って流れに降り立つ。

右から小ガレの押し出しのようなダイレクトクローアールを合わせる。本流に入りすぐ上流で、小さな雪渓のある右岸に幕場を求める。枯れ木を使ってタープは立派に設営された。夕立にめげず、今宵こそはと薪を集める。満月の夜、焚き火の傍ら松本さん持参のウォッカという、文章にするとなにやら怪しい核心部前夜であった。

8/14, 三日目。そろそろ曜日も日付もわからなくなってくる。前夜からの思案の末、登高ルートは春川本谷に変更。出発前にダイレクトクローアールの末端を見物してくる。

本流はすぐに連瀑帯に入る。朝一からロープを出して滝を登り、溯行図に載らない手強い滝をショルダー、突っ張り、シャワークライム、荷揚げなど、あらゆる手立てで進んでいく。その間に急に水は冷たくなる。チョックストーン滝の向こうには大滝（実際には右岸に落ちる枝沢の涸れ滝だった）が迫ってくるのが見えている。と、その手前に何と大スノーブリッジ。シャワークライムを終えてはじめて目に入ってくる。ブリッジを走りくぐって大滝手前でレスト。

本流は右に曲がる大滝であり、水流は函の手前側に落ちている。下段は函の奥から容易であり、中段は腕力登攀を含めた核心部である。上段は傾斜と高度感はあるものの階段状で、岩のレベルはさほどではない。とはいえ、大滝の登攀でハーケン7-8枚を打ち(残置は、無い)、上まで3時間半もかかってしまう。

大滝の上で流れは緩くなるが、一ヶ所、8mほどの滝は右のヤブを巻く。山頂近しの雰囲気が出てきてもまだ長く、二俣上の滝を右から巻く。ササの中の窪は途切れ、長いやぶごぎの末、虎毛山頂避難小屋に飛び出した。頂上の向こうに広がる湿原地帯はまさに別天地だった。

四日目は虎毛沢右俣下降。傾斜が緩まるまで登山道を下降し右の窪筋に入る。ぬるぬるのナメ滝にてこずって、3人とも滑り落ちる。次のナメ滝は支点を見つけて懸垂下降。その後も懸垂を



大滝中段 島田 加藤



虎毛山頂 尾崎 松本 島田

多用する。虎毛沢左俣と合流し、中流では亀甲模様のナメに岩魚がうようよ泳いでいた。気が抜けたか？ここから長かった。突然ゴルジュとなって左岸から赤湯又沢が合わさる。ゴルジュは二俣を左から乗り越して赤湯又に降りる。登り返しがまた長い。所々に噴気の上がるのを見、右岸のガレ場に大きな噴気帯と湧き出しを見ると、程なく温泉地帯に到着。タープを張って早速入浴。

長かった行程もいよいよ明日まで。雨がちとなって焚き火はあきらめたが、温泉にウイスキーのおかげでほっかほかの夜でした。

五日目、8/16 最終日。赤湯又沢右俣を高松岳に向けて溯行。最初の右枝沢は沢水自体が温かい。その後 860m 分岐を見落とし、920m 地点を 860m と思ってしまう。予定よりも一つ上流側に入ってしまう、時折滝の現れる急な傾斜に首をかしげる。詰めはヤブが濃かったが、9:51、無事に 1160m 地点に出る。



最終ピーク高松岳 島田 尾崎

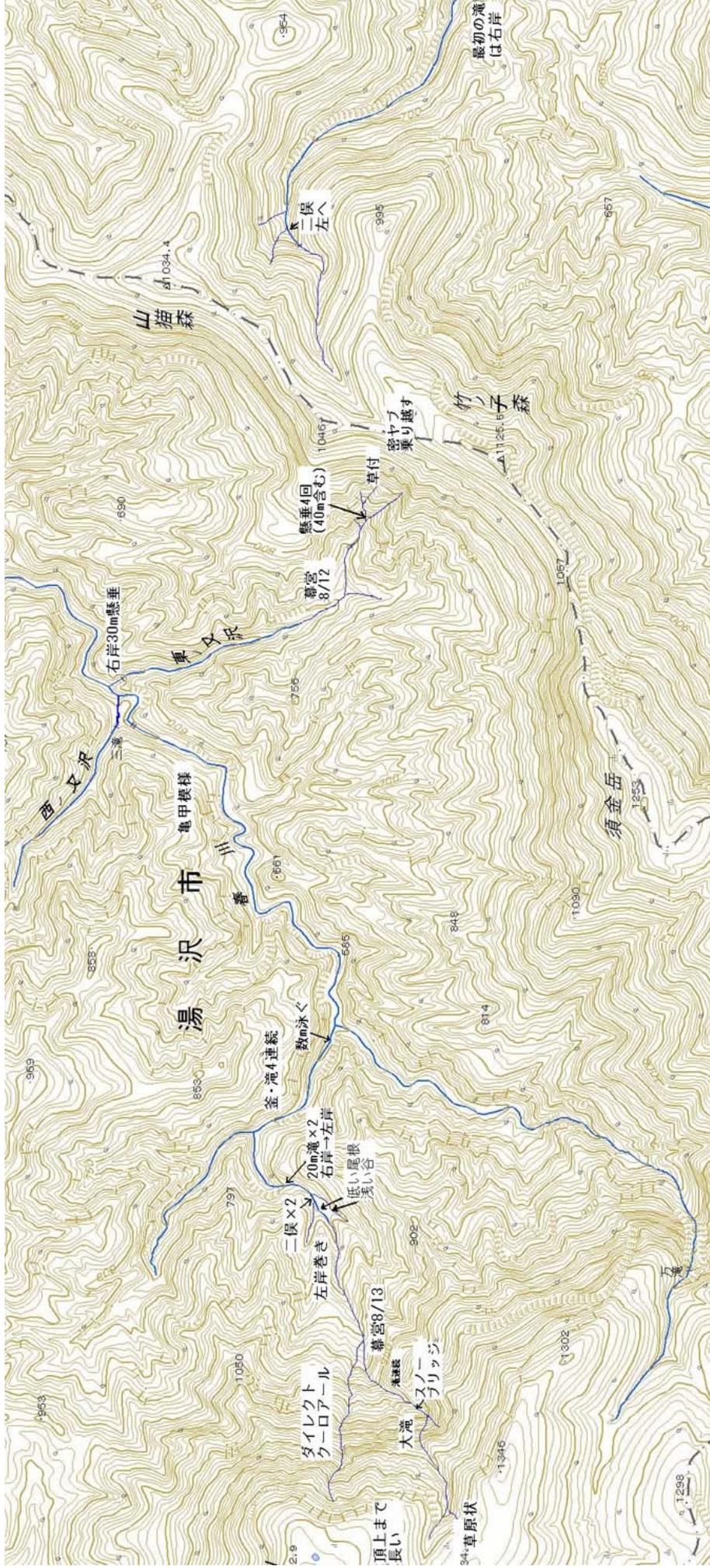
最終ピーク高松岳はガスの中だったが、ついに来た。この時初めて湯ノ又温泉でタクシーを呼ぶことを思いつく。下山は休憩なしで温泉へ直行だった。

やはり若い島田君、速い！林道が黒滝沢の二俣まで地図以上に入っており、なかなかきつい下山だった。12:00 温泉着、さっぱりして 13:00、タクシーで横堀駅に向かう。駅近くの地元飯屋で冷やし中華を食って新庄へと出た。

ハーケンはほとんど残置がなくパーティーで 10 回以上打ったし、ロープの使用は上り下りあわせて 20 回では済まない回数だった。春川本谷は「関東周辺の沢」では 3 級だが、少なくとも 3 級上はありそうだ。タフ&ヘビーでいろいろ充実した山行となった。

虎毛・皆瀬川春川本谷

2006. 8. 12-16



## 0614 奥多摩/WC : 水根沢

【期日】 2006. 8. 13 【参加者】 山野, 上野(利), 他 六つ星山の会メンバー12名

### ◎ 山野 記

8月13日日曜日の視覚障害者との水根沢沢登りを報告します。7時20分に新宿駅南口集合。旧知の宮本さんがいたのですぐに分かったが他の人は初対面。ホリデー快速で奥多摩へ。途中から乗車の人も含めて総勢14名。内視覚障害者は4名。視覚障害者と一緒に乗車すると1名は付き添いになり2名で大人1名分の乗車運賃でいい。子供切符をそれぞれ買って乗れる。

奥多摩についてすぐに臨時の奥多摩湖行きのバスで水根下車。約5分歩いたところに奥多摩むかし道の休憩施設がありそこで食事と沢登りの準備（ハーネスか腰ベルトをつけ、沢靴や足袋にわらじなどそれぞれ）をしていない荷物は置いていく。10時45分ごろ出発。キャンプサイトからすぐに沢に入る。沢登の経験者は山野, 上野を含めて5名。視覚障害者はまったく初めて。宮本さんは10位前に日和田山などで岩登りの経験はある。視覚障害者のうち1名はある程度見える？ようで（少なくとも光は感じる）1名で歩ける。後の3名はほとんど全盲のようだ。前の人ザックに紐巻きつけ、それをつかんで歩く。前後で声で指示しながら、またザックの動きを感じながら歩く。山野は先頭で続いて上野君が障害者の鈴木さんを誘導しながら登った。

最初の2つの滝はザイルも使ったが比較的容易に登った。滝のところもホールドやスタンスの位置を一つづつ教えて登る。沢の水が気持ちよさそう。林道が橋で横切るのを過ぎたところで後ろから軽装の若者たちに追い抜かれる。ヘルメットに水中眼鏡をつけて、荷物はほとんど持ってない。

真ん中に大きな岩がある4m?の滝は前の人真ん中の岩を簡単に乗り越えていったが、身長之差か山野は届かず、ホールドが少なかったので、右の滝の中を濡れながら登った。ホールドスタンスは沢山で濡れるのを気にしなければ簡単。ザイルをたらし、皆を確保しながら滝の中を登る。

次の滝は左から。以前は釜が深かったようで残置シュリングがたくさんあった。そこもザイルをだした。続く滝は突っ張って登る樋上の滝。上野君へ手足を突っ張りながら先に行ってもらい、続いて山野が登って上からザイルを下ろした。続く鈴木さんが登り始めたが手足を突っ張って登る感覚がよくつかめなかったのかづり落ちて滝の中で顔が見えなくなった。引っ張りあげようとしたが無理で、結局ザイルを緩めて釜におりた。めがねがなくなり、帽子もとんだが、帽子は浮いていて拾えた。後できいたら頭が真っ白になりなにがなんだか分からなかったそうだ。水の中に顔が隠れていたのは30秒位か？かなり長く感じた。高巻はかなり下かららしく、みなそこでビビって時間も1時半だったので引き返すことにした。

くだりの滝の8カンを使ってのアップザイレンもいきなりには何とかこなし3時半に休憩所に着いた。着替えて水根に戻るとバスはすぐ来て奥多摩駅へ。駅前の食堂でビールを飲みそばを食べて話

をした。

視覚障害者との登山は初めてだったが、それなりに楽しかった。水根沢は途中で終わったのでまた行きたい。上野君ご苦労さんでした。

視覚障害者の山の会「六つ星山の会」では10月15日に創立25周年の記念フォーラムを開く。田部井淳子さんの講演などがある。ホームページは <http://www.mutsuboshi.net/>

### ◎水根沢報告-2 (上野 記)

遅くなりましたが、上野の所感を記します。

- 1：障害者の前を歩く役をやりましたが、普段無意識に考えている事：即ち一步一步の進め方について声に出すというのが慣れないちは戸惑うが、1時間くらいでだいたいコツをつかめます。
- 2：指示をしながら歩くと自然とペースが落ちるが、障害者にはそれで良いペースとなるのでそれでちょうど良いのかもしれないです。
- 3：足元への指示だけでなく、自分の横に岩などがある場合はそれを触りながら沿って歩いてもらう様に指示すると良いでしょう。
- 4：逃げやすい沢なので、入門にはいい沢だと思います。
- 5：最後に食堂を出るときに、宮本さんが（全盲）「そのサーモンピンクのザックは私の。取ってもらえますか？」と言われました。この発言には衝撃を受けました。

障害者にとって「色」の情報は、物事を絞り込むのに重要度がかなり低く、もはや情報ではなくただの文字列でしかありません。障害者にとっては「50Lくらいの」とか「脇にカラビナがついている」とか「モンベルの」という情報の方がはるかに使い勝手が良いはずです。敢えて「色」の情報を伝えているという事は、晴眼者が障害者に対して気を使っている以上に、障害者が晴眼者に気を使っている事がこの言葉に垣間見えました。

ベタベタと手取り足取り付き添ってやる事が出来ればそれに越した事はないですが、私はそんな出来た人間ではありません。ただ、どういった情報が有用かという事は考える必要がありますね。これに関しては机上で考えるよりも、実際に接してみて考えた方が良いでしょう。また機会あれば同行させていただきたいですね。

---

## 0616 奥多摩/WC : 日原川鷹ノ巣谷

【期日】2006. 8. 27(日) 【参加者】渡邊, 中村, 青谷

---

9時入溪, 12時過ぎ下山。

霧雨気味の曇天, 大滝まで10m級多段の滝2本。特に問題なし。大滝20mは右壁を念のためザイルを出す, これも容易。ここで引き返す。仕事道は荒廃しており, 沢をそのまま下る。足慣らしとして楽しい半日でした。

喜仁さん「中学生の沢としてはあまり向いていない」。正俊さんの軽快な, 喜仁さんの力強い歩きとともに健在でした。(青谷 記)

---

## 0617 北アルプス : 白馬鑓ヶ岳・白馬鑓南稜偵察

【期日】2006. 9. 2(土) 【参加者】尾崎

---

天気はとても良く, 残雪が極めて多かった。縦走路行く人たちのカラフルで奇麗な格好に比べ, 沢でどろどろになった自分のザックが小汚い。中高年が多かったものの若い人も男女とも結構多く, さすがは白馬ブランドですかね。

肝心の偵察結果は, 白馬鑓ヶ岳頂上からの目視では, 南稜中間部に岩場があるようで, それ以外は問題なさそうだが, 岩場が北面なので南面の鑓温泉登山道から確実な結論は出せなかった。ここに行くなら現地調査含めて文献やネットなどもっと調査が必要かもしれない。なお, 鑓温泉付近での幕営は5月も雪崩の危険があるとのこと。この辺りで張るなら鑓温泉南側に平らに突き出た小尾根上が良さそうだ。

帰りはバスも終わって駅まで2時間ちょっと。南稜よりも猿倉から白馬駅まで歩くとどれくらいかかるかのほうが記録の価値があったりして。

猿倉 6:15~(気合の入らない歩き)~8:20 鑓温泉水平登山道中間 8:40~(まじめな歩き)~9:34 鑓温泉通過~(ちんたら登り)~2500m付近~(がんがん歩く)~12:00 鑓頂上 12:20~(がんがん)~鑓温泉 14:00~16:30 猿倉~18:50 白馬駅

---

## 0618 虎毛/WC : 三滝沢・赤湯又沢

【期日】2006.9.16-17 【参加者】中村, 青谷, 上野午

---

台風と雨が予想されたため、計画書どおりは難しいかなということで入山しました。天気は思ったほど崩れることなく、三滝沢～赤湯又沢左俣下降と順調に消化。情報どおりの温泉脇にテントを張り、夕と朝風呂を堪能しました(優雅な写真が撮れました。)雨の予想に虎毛沢は断念し(結果的には曇り時々小雨で推移)、そのまま赤湯又沢右俣左沢より稜線に抜け、高松岳～山伏岳と巡って泥湯に下山しました。

沢はグリーンタフ(緑色凝灰岩)のナメがきれいでしたが、ザイルを出すことも無く、やや物足りない結果に。正俊さん上野さん、お世話様でした。(青谷記)

## 0621 北アルプス：燕岳～東鎌尾根～槍ヶ岳

【期日】2006.10.7～9 【参加者】尾崎，灘吉

予想以上の吹雪と降雪。当初の北鎌計画は東鎌尾根へのエスケープとなるものの、得られたものは大きかった。秋山の難しさを改めて実感した。

## 【コースタイム】

10/7

穂高駅 雨量規制で足止め 6:40 頃まで待つ。

中房温泉 7:54 発

8:52 第3ベンチ 9:00

9:58 合戦の頭 10:12 雨が降り出す

10:40 燕山荘 通過 稜線は風が強く、みぞれが吹き付ける

11:15 R 時折日が射すが、天候回復ならず。

13:00 ごろ 切通岩を過ぎ大天井西面のトラバースへ入る。風雪強まり雨具の下を履く。

13:20 大天井ヒュッテ 玄関先で休憩させてもらう。今後の方針を検討。突っ込めないとの判断から、大天荘のテン場へ登り返すことに。

14:25 ごろ 南面トラバース道が横切る小沢で水を汲む。

14:40 大天荘 幕営

10/8

停滞後、10:10 発 東鎌尾根を殺生までの方針。

11:00 貧乏沢下降点 天候はいまだ悪い。

11:33 R 常念山脈方面は天候が回復するが、現在地から槍穂高にかけては吹雪

12:45 西岳 13:00 冬期ルートを直接下降するが、けっこう悪い。

14:33 R 2595m 標石の槍側。吹雪弱まる。

16:00 R 16:09 ヒュッテ大槍手前

17:00 殺生小屋 幕営 氷点下 1℃で思ったより気温は高い。

20:30 ごろ 快晴の月夜となるが風が強い。懐電をつけて登ってくる2人がいた。

10/9

槍アタック 4:55 発 月に照らされ懐電はほとんど要らない。

5:25 ごろ肩 5:45 ごろ アイゼンと登攀具をつける。みんな日の出待ちで今日は登っていない。

6:15 ごろ槍ヶ岳

6:55 肩 7:10 後続者が次々と登ってくるが、ほとんどが装備なし。大丈夫かな…

以降、殺生発 8:05, 11:00 横尾 11:11, 上高地着 13:30。

以下、ホームページより。

No. 2218 10月連休を振り返って 投稿者：尾崎(47期)

出発前に雪が降るだろうと思いましたがここまでとは。個人的にも反省が多い山行でした(ゴーグルとスパッツを持っていかなかった。北鎌は2度目だから・・・みたいな緩み。計画書に東鎌エスケープの記載忘れ。毛手とアンダーは持っていったが直前に迷って入れた)。初日に大天井まで来たとき既に吹雪で、これ以上つっこむ感じではないなと感じて結局東鎌経由でした。しかし、晴れてサクッと北鎌に行けちゃったりするよりもいい勉強になりました。

おごった言い方かも知れませんが、月曜の朝、雪の付いた槍の穂先へ我々は朝一番だったこともあり、冬装備登攀具をつけて登りましたが、群集心理かトレースがあれば安心なのか、後からはアイゼンもピッケルもなしで登る人がほとんど、中には手袋なしもいて、みんな空身でした。大学山岳部のような1パーティーだけ装備を持っていました。槍沢下山中、上空をヘリが槍ヶ岳方面に急行していましたが、転落者があったのかもという懸念があります。奥穂や白馬の遭難はどちらかという気象遭難ではありますが、槍の現場を見ると起きて不思議はないと言うのが正直な気持ちです。皆さんどう思われますか？

No. 2219 お疲れ様でした 投稿者：灘吉(48期) - 2006/10/11 (Wed)

結果的に危ないところはありませんでしたが、色々課題がありました。

- ・テン場の確認(大天井ヒュッテはテン場はありませんでした)と色々な事態を想定したエスケープ(サブ)ルートの検討。
- ・早めの雨具着用・・・細かい雨だったので下を履くのが遅れて、体力をロスしたように思います。
- ・天気を考えた燃料の量・・・大1缶でギリギリでしたが、暖房と乾燥を考えるともうちょっとあった方が安心できました。



北鎌には行けなかったが有意義だった

尾根のどちら側にいるかで風の強さが大分違いました。4 月蓬峠に向かうときのこと思い出されました。エスケープができる場所がないと、白馬の遭難と同じ状況も考えられます。

あと、月夜の中を殺生ヒュッテに登ってくる人にはビックリしましたね。

いずれリベンジしましょう。アルバムに画像載せました（あまり撮れませんでした）

-----  
No. 2220 投稿者:加藤(35期) - 2006/10/12(Thu)

お疲れさま。写真を見ましたが、一夜にして冬の装いという感じですね。課題は残ったようですが、人のいない雪景色の東鎌尾根もなかなか味わいがあったのでは。槍沢下部の紅葉もきれいそうですね。

>後からはアイゼンもピッケルも手袋もなしで登る人がほとんどでした。

おそらくほとんどの人が持ってきていないのでしょう。最近秋が遅いので、この時期にこれだけ雪が積もったのは久しぶりですね。十数年前の立山での中高年の大量遭難が思い出されます。



黒部源流の山々

-----  
No. 2221 投稿者:尾崎47期 - 2006/10/12(Thu)

今回の課題は、秋山特有の性質もあるのですが、どの季節にも程度の差こそあれ通じると思います。このような天気だったからこそ明確に得られたのでしょ  
うね。

また個人的には、山に見透かされたなという実感を持っています。「槍頂上には登らせてやるが反省が必要」みたいな。北鎌には行けませんでした、印象の残る山行です。



槍沢を下りながら振り返る

## 0623 西海谷山塊：海谷駒ヶ岳～雨飾山

【期日】 2006. 10. 27～28 【参加者】 尾崎

## 【コースタイム】

10/27

上野＝(急行能登)＝糸魚川＝根知 6:40－7:45 大神堂入口 7:55－8:45 山道入口 9:00－9:30 駒清水－  
11:34 海谷駒ヶ岳 11:53－13:45 鬼ヶ面山南峰 13:57－14:34 海谷下降点

10/28

発 6:00－7:00 鋸岳－7:30 梶山分岐点－8:48 シゲクラ尾根水場手前 9:05－9:50 笹平 (雨飾山往復)  
10:20－12:26 小谷温泉バス停 12:31＝南小谷

未明の糸魚川は真っ暗で雨。乗り継いで大糸線の根知駅からスタート。幸い雨はやんで、バスを待つより歩く方が早い。シーサイドバレースキー場手前に駒ヶ岳登山口の大神堂入り口バス停がある。大神堂集落から通学の小学生と見送りのおばさんが降りてきて、糸魚川市のスクールバスが来た。「この柿の木にクマが出たのよ、朝夕があぶないから」。小学生の付き添いパトロールだそうだ。まだ捕まっていないとの事。鈴を取り出し歩き始める。

駒ヶ岳頂上までは昨夏雨の中偵察済みである。1 時間ほど林道を登って山道に入り 30 分で駒清水。この先 2ヶ所の水場は保証できないので、明日のシゲクラ尾根分岐までの分をくむことにした。時おり青空がのぞくが、すぐに濃いガスに巻かれてしまう。大岩壁下のトラバース前後の窪はどちらも水汲みには十分だった。急登続きで頂上には 11:34 着。

湿度の高いガスや比較的乾いたガスが去来する。駒ヶ岳東峰から突然右下への岩壁の悪い下降。湿った暗いガスに巻かれ見通しは無く、感じが悪い。岩壁間際で倒木をくぐるとザックが引っかかるし、最後の一步は外側に振られてやばかった。懸垂下降のほうが良いくらいだ。

なんともない道が突然岩場の急下降となったり、微妙なトラバースが出てきたりする。加えてその上に落ち葉が積もって足場がおぼつかない。不安定なハシゴ、鎖、古びた Fix ロープが何度も出てくる。常に沢の高巻きをしているようなルートである。地図では各ピーク間の距離は短い、その感じ以上に時間を食う。

鬼ヶ面山北峰を根知側から巻き、中間のコルを乗り越す。北峰への道はわからなかったが、南峰へははっきり踏み跡があって往復してくる。コルから下降路入口が不明瞭だが、下りきると尾根が広がって、小広場で焚き火跡を見る。すぐに海谷下降点。14 時半だが、鋸山を越すのはきついで、海谷への下降路へ少し入って幕営した。夕方 6 時ごろから天候は回復。星空、町の夜景、弧を描く海岸線が望まれた。夜行のせい、食事しながら眠くなり、19 時前に寝てしまった。

翌日は雲ひとつ無い快晴。縦走路まで登り返すと雨飾山がどっしり大きく、その向こうに北アルプスが白く輝いている。反対の東側は海谷溪谷を挟んで阿弥陀山の双耳峰、ホソドのコルの切れ込みをもつ鉢山、昼闇山、その向こうに焼山が聳えている。一段下ってトラバースして、10m くらいのハシゴで戻って高度感たっぷりの不安定な尾根を行ったりと、道は相変わらずスリリングであり、たっぷり 1 時間かけて鋸岳の肩に着く。頂上へは左に 20m くらい行った所で、南面は岩壁となって切れ落ちている。下りは肩から Fix ロープを目印に急下降する。

梶山分岐からは長い登り。ようやく登ってシゲクラ尾根分岐が近くなると気持ちよい尾根道となる。笹平への登りは軽くこなして小谷温泉分岐からは雨飾山頂へ空身で往復。急に人が多くなった道を駆け下って小谷温泉へ。

これで、海谷のピークは鉢山を除いて一通り済んだこととなる。海谷の山々は、標高はさほどでないが、案外時間もかかり侮れないと思った。次は、雨飾南稜から北西尾根下降とか、シゲクラ尾根で東西海谷・妙高をつなぐこと、火打燕尾根から焼山北面台地への山スキーが課題となりそうだ。

---

## 0625 上越：四万温泉～赤沢峠～法師温泉

【期日】2006. 11/3～4 【参加者】山野, 伊藤, 岡田, 小川, 平野, 山崎

---

11月3日(金)群馬県四万温泉にとまり、5日赤沢林道経由で赤沢峠、法師温泉までハイキングに出かけた。ワングル同期の山崎、伊藤、小川、平野、岡田の計7名。

4日朝8時半から四万湖のほとりから歩き始め、紅葉のきれいな歩きやすい道を2時間で赤沢峠につく。峠からの下りも一箇所の沢の横断のところの鎖場を除けばいい道です。あまり人が歩いていないようで落ち葉が多く、時々つまづきそうになります。下り2時間法師温泉につきました。そこでまたゆっくり温泉に入り帰りました。

曇っていましたが暑くもなく楽しい一日でした。

---

## 0628 南大菩薩：お坊山南東尾根～米沢山北尾根

【期日】2006. 12. 24 【参加者】尾崎

---

寝坊山行で、ふもとが11時過ぎだが、地図を良く見て面白いルートだった。この山域は山自体はそれほど大きいわけでない分、冬場は地図読み山行などオリジナルなことができそうだ。地図を見ると、同じようなことが出来そうな場所がたくさんある。案外踏み跡もあって、先人のものか、それとも同じことを考える人がいるのか。

お坊山南東尾根は、ある程度登るとはっきり道が出てくる。しかも整備されている。米沢山北尾根下り降は、ちょっと気を引き締めてかかる。微妙な分岐もあつたりで、おもしろい。それでも通行の跡が感じられる。下部は送電線監視路か、落ち葉の堆積の下に踏み跡が出てきて、国道20号の笹子トンネル北側に降りつく。

ルーファイトレーニング+トレイルランニングで面白い日帰りハイキングだった。

## 0629 南アルプス/VR：悪沢岳北尾根～赤石岳～小渋川

【期日】 2007. 1. 3～6 【参加者】 松本, 尾崎

1/3 下部温泉駅 5:00＝登山口 6:30－7:15R7:23－8:15R8:30－9:20 1370M－10:43R10:55－12:00 伝付峠  
12:20－12:58R13:15－13:50 二軒小屋上流のダム 14:00－16:15 蛇抜沢手前

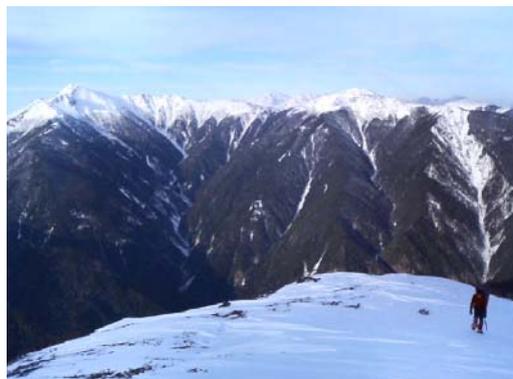
快適な駅寝の後、タクシーから放り出されたところはまだ闇の登山口。もっとも荷の重い初日は地道な峠越えである。きつい登りの後峠付近で雪を踏む。

二軒小屋から大井川西俣林道を経て、悪沢北尾根下部までは 2002 年秋に CRUX の中澤さんと偵察済みである。今回は新たに、発電所の上流で林道の真ん中に真新しい看板が立てられており、林道は放棄されているらしい。そこからは大小の崩壊箇所が何度もある。うっすらと地面を覆う雪に単独の踏み跡を時折見る。この時期こんな所に入る人が、他にもいるのか。

重荷の長丁場でペースが落ちる。予定は北尾根末端の慣合飯場跡（小西俣と北俣の出合。取水施設あり）までだったが、右岸に移ってしばらくの蛇抜沢出合手前で幕営。雪がないのですべて焚き火でまかない、燃料を節約する。

1/4 発 7:07－7:40 蛇抜沢左岸尾根取付－8:24R8:35－9:40 2050m 9:55－R－R－14:07 森林限界下－15:35  
2800m ピーク手前(幕)

ショートカットのため蛇抜沢左岸尾根に取付く。出だしは急だが後はゆるやかでヤブもなく登りやすい。2000m 付近でアイゼンをつけ、2300m 付近でワカンに交換。シラビソ幼木のスカ雪ラッセルをこなし、森林限界手前はひざ前後のラッセル。森林限界を越えた所で主尾根に合流すると、何と先程の दौरान単独の踏み跡を発見。主尾根を行かなくてよかった！クラストした斜面にアイゼンをきかせ、南ア中部の眺めを独占した登高となる。天気図作成のため、15:30 過ぎに幕営。



2 日目夕方、森林限界を越える

1/5 発 5:55－6:15 2800m ピーク－6:46 R－8:28 悪沢岳 8:56  
－10:36 中岳－前岳 11:10－13:00 大聖寺平－15:35 赤石岳  
－16:40 大聖寺平

暗いうちから出発し、曙光に染まる峰々に感動する。悪沢頂上までは急登もある。頂上から駿河湾が見えた。赤石が遠い！荒川中岳への下りは少々悪い。荒川前岳では崩壊地の向こうに荒川西稜を望む。いつの日にかは西稜を。小渋川の積雪も、偵察時よりは増えているのが見下ろせる。稜線上の冬道を大聖寺平へ。この下りも侮れず、ルートファインディン

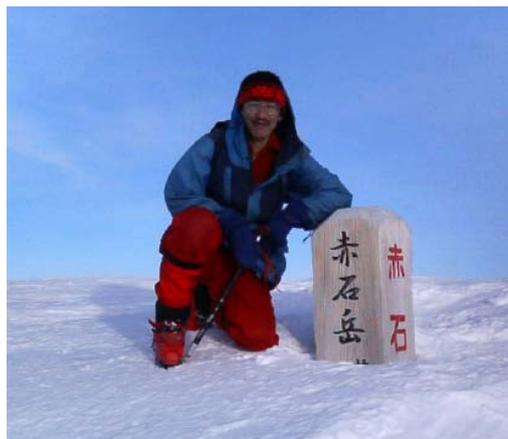


悪沢岳バックに中岳へ

グに注意。吹雪いたりすると悪そうである。

大聖寺平から赤石を速攻アタック。小赤石からの稜線は東に雪庇が張り出し、所により小雪壁もあり緊張する。登頂できなくても 15:40 には引き返すと決め、時間との競争となるが、5 分前、ついに最後のピークに到達した。

赤石下山のころに増え始めた雲が、寝る前には急に吹雪となる。南風の生暖かい吹雪である。念のためブロックを建設してから就寝する。



ついに赤石山頂

### 1/6 発 7:05 - 11:06 広河原小屋 - 16:17 湯折最奥集落

起きてみると視界はあるが、積雪が 15cm ほどある。今日の下山のルート取りに迷うが、夏道通りとして 7 時に下降を開始する。途中、小規模な雪崩に遭うが、無事に夏道の尾根に合流し、長い尾根を広河原小屋へ。ここから再び緊張の渡渉帯に突入するが、入下山とも偵察の効果は大きい。冬靴 + アイゼンでほぼ問題なく林道へ出た。べちゃ雪のなか、湯折最奥の集落までは長い。夕暮れの音楽鳴る集落にたどり着いたのは 16 時半。民宿の玄関先でようやく人心地つくことができた。ストーブと大根煮を出してくれたおばちゃんには感謝です。

=====

ヒヤリハットなのか、アクシデントというべきか分かりませんが、今回の経験は残して、これから生かしていきたいと思います。ホームページ記載内容を転載します。

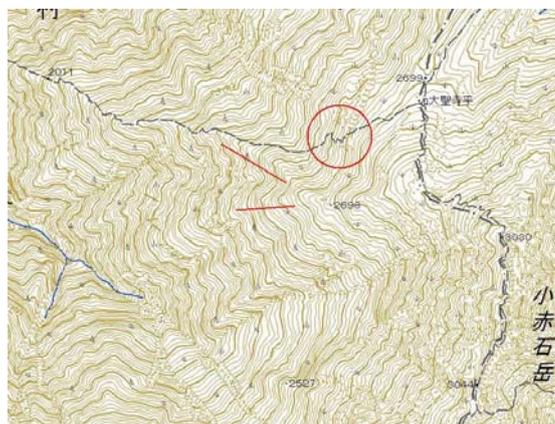
以下、西朋 HP から

-----  
No. 2277 まずは簡単に報告 投稿者：尾崎 47 期 - 2007/01/07 (Sun)

実は、1/6 の下山中、朝 7:55 分ごろ、大聖寺平からの夏道下りトラバース中 (2640m 付近) に雪崩に流されてしまいました。そのことについて、不完全ながら報告させていただきます。

#### ●雪崩発生までの経過

1/5 は赤石往復後、16:40 に大聖寺平で幕営。1/6、7:20 ごろ下山開始。当時の天気は吹雪です。30 分ほどトラバースぎみに下り、傾斜が強まってくる。左上でドドドッと音がしたと同時に体ごと持っていかれ、雪面にでていたヒゲ枝につかまって止まろうとしましたがつかめず、木か何かに軽く頭を打ち (このとき体の向きや見えていた風景に記憶なし)、枝分かれした (しなってクッション性のある)



ダケカンバが正面に目に入って、それを抱きかかえるようにして止まりました。距離は 10m ほど、埋没はせず、怪我もありませんでしたが、やはり精神的動揺は感じました。止まってからも、二次雪崩を警戒してその場を去るべきか、別の場所のほう落ちていない分雪崩れるのかなど、次にどう行動したらよいのか戸惑いました。

とりあえず周囲の緩傾斜部分に移動し、その後も下山を続行しました。個人には進むことに抵抗を覚えましたが、結果的に、今回雪崩れた所よりも先に位置する沢筋本流付近のほう緩傾斜で雪崩れにくそうでした。

### ●原因の推定

5 日までの好天で雪面がつるつるになった上に、新雪が降って弱層ができていた所へ踏み込んだため、トレース上部の雪が支えを失って落ちてきた人為発生の上層雪崩だと思います。行動中に、行く先の斜面が雪崩れそうという認識をすることはあっても、今ここの斜面がすぐに雪崩れるかと思う認識が希薄でした。次にこのようなことがあったら生きて帰れる保証は無く、二度とこのような体験はしたくはありません。この程度なら良い経験かもしれませんが、反省です。

### ●現地での事前対策

1/5 夜は 18 時過ぎから急に風雪が強まったため、就寝前にテントの周りにブロックを作りました。寒いと思ったらとても暖かでした。下降ルートを検討した際、縦走路を南に 2840m 付近まで登り返し、西に分かれる尾根上を下降することを考えました。この尾根は 2670m 付近で枝尾根を直進方向（真西）に分け、広川原（小渋川）へは北西に下ります。枝尾根はかつて遭難のあった本岳沢へ落ちます（羽根田治著「道迷い遭難」参照）。両尾根の分岐手前の 2690m 付近に平坦地があるので、ルートファインディングは可能と考えました。

実際は、尾根上であっても雪崩れる可能性はあること、ルートファインディングは困難で枝尾根に入ってしまう可能性もあることから、夏道に入りました。1/6 朝は視界もあったので、尾根の方が夏道トラバースよりは危険は少ないかもしれなかったのですが。両方を直接比較したわけでないので、絶対の結論はわからないというのもまた事実であり、現場での判断は難しいとも思います。結局のところ、何に重きを置くかということでしょうか。5 日のうちに適度なところまで下るべきだったかもしれません。

No. 2280 無事でなにより。 投稿者：加藤 - 2007/01/08 (Mon)

最近の冬は、気温の変動幅が大きいので、状況判断がより難しくなっているようですね。こうしたなか、積極的にパウダーに飛び込む山スキーがはやっていますが、あまり事故が起こらないのが不思議なくらいです。朝 2~3 時くらいから行動して、早朝に稜線に出て午前中には下山する日帰りのスタイルが一般的なようです。

かつて行った弘法小屋尾根の上部の急斜面も今回のような天気だと雪崩れそうですね。

雪崩にあったとはいえ、無事だったことですし、一昨年赤石の頂上からみた長大な冬の稜線を踏破したのですから、達成感のある山行だったのでは。

今回はわたしは体調不十分で不参加でしたが、松本さんのようにしっかり鍛え直さないといけませんね。

---

No. 2282 無事でよかったです 投稿者：灘吉(48期) - 2007/01/09(Tue)

10月の槍でも思いましたが、行くか行かないかの判断や天候の見極めなど難しいと感じます。

(登り返しなんてあると、楽しい気持ちが出てきますし)

結局、自分の経験が基になった判断をするのだと思いますが、こう書いていても、正直自分は自信がありません。

身近な事例を通して、西朋全体のレベルが上がればよいと思います。

---

No. 2283 雪崩の状況の補足 投稿者：松本(28期) - 2007/01/13(Sat)

雪崩の巻き込まれた状況を補足します。

5日は無風快晴だったのですが、夜になってから、風が吹き出だしました。吹雪は、それほどひどくはなく、時々、風もまったくやむことがあった程度で、積雪は、10cmから20cm。視界も十分にありました。気温も比較的、高い状態でした。

朝、明るくなってからすぐに撤収し、ワカンをつけて夏道をたどる形で下降を始めました。ときどき、脚がうまく雪を捉えられず、バランスを崩すことがありました。クラストした斜面に新雪が積もった状態だったわけです。斜面を左に下降気味にトラバースしている時、15mほど前にいた尾崎君がすすると滑り出し、すぐに止まるだろうと見ていたのですが、10mほど流されて止まりました。上の斜面を見ると、15cm程度の雪の断層が出ており、そこで初めて小規模の表層雪崩が起きたことがわかりました。メガネが曇っていたため、雪崩れたことはすぐにはわかりませんでした。斜度は40度程度です。

ちょっと先の傾斜の落ちる場所まで避難してから、事後を協議しました。尾崎君は、登り返して上から尾根を忠実に下ることを主張しましたが、そのままトラバースを続けて下ることにしました。

理由はふたつあります。

あの状態では、尾根筋であっても一定以上の斜面ではどこでも雪崩れる可能性がある。また、尾根の出だしで忠実に尾根を見つけることはGPSを持っていればできますが、もっていない場合至難の業です。少し外れた場合は、トラバースの必要が出てきてしまい、それを避けるには登り返す必要があります。

す。

もうひとつは、時間の問題です。時間がたてばたつほど積雪は増えて行きますので、危険度は増します。

最短距離を最短時間で通過するということが、重要であり、今回のルートがベストだったと考えていますが、その場では、一番楽に逃れる方法は何か、程度の思考しかなかったのかもしれませんが。

幸いなことにその後は、もう一回、表層雪崩を見ましたが、尾崎君が流された時以上の斜度はなく、ときどき出てくる赤テープ（あまり数はありません。尾根に入るまで4, 5個程度です）を確認しながら、尾根に導かれました。あれ以上の急な斜面がなかったのは、結果であり、その場で確信していたわけではなく、むしろ、左に急な尾根の斜面が見えていたので、結果的に幸運だったとしかいえません。

雪崩の可能性はある程度は認識していました。もし、絶対に避けるなら、雪がやんで落ち着くまで待つしかないでしょう。食料、燃料ともかなり残っていましたが、十分に可能でしたが、8日の最終下山ぎりぎりまでかかることになったでしょう。実際にはこの選択肢は考慮しませんでした。

今回は積雪が少なかったこともあり、大事には至りませんでした。私は、南アルプスではビーコンまで持っていく必要はないのでは、と思っていたのですが、今回の事故で甘かったことを思い知らされました。

山全体としては、ほとんどが無風快晴の中の行動であり、人ひとりにも会わず、実に楽しい雪山を堪能しました。あれだけのルートを一日早く抜けられたのは、好天のおかげです。もし、一日ずれていれば、縦走はできなかったでしょう。非常に幸運に恵まれた山行でした。

---

No. 2284 追加します 投稿者：尾崎 4 7 期 - 2007/01/14(Sun) 13:26:17

確かに今回はいろいろ幸運でした。入山時に天気は良かったですし、2日目の朝にはガソリンコンロが燃料漏れを起こしたものの、修理して直るというのもありました。1月6日の下山自体は、良かったと思います。以降個人的見解ですが、追加させていただきます。

確かにスピーディ・イコール・セーフティというのは重要な概念であり、どう判断するべきか、改めて考えさせられました。スピーディーを求める行動範囲の定義域というか…ただ、流された瞬間を思い出すと、「やべーっ」と感じながら為す術のない恐怖を思い起こします。そのときの認識以上に落ちる速度が速く最初の小枝はつかめませんでした。その数メートル下にクッション性のあるダケカンバがあって、止まりました。雪崩自体が停止したのではないです。疎林帯だったのでその下にも樹木はありましたが、それが無かったら、どうなったかの保障は無いというのが率直な意見です。

また、起こりうる最大の雪崩の規模、(現場の傾斜や安定箇所までの高度差による) 雪崩を受けた場合の危険性は、沢筋と尾根上ではどう予想されるかも、重要かと思います。夏道ルートと尾根ルートを直接比較したのではないので絶対の結論は出せませんが、雪崩の規模だけに関しては、尾根上のほうが小さいかも知れず、尾根上で雪崩を受けてひとたび流されたら、落ちる距離が長く危険かもしれません。

時間的にもっとも有利なのは今回のルートですが、尾根上でも、2750m より下で急下降し、2680m 付近で平らになるという特徴から下降が出来たのではと思います。こんな場合にこそ高度計携行が望ましい気がしてきました。

以上は私の個人的見解ですが、意見の相違があればそれを率直につきあわせ、ぜひともレベルアップを図りたいと願っています。松本さんには、夏も冬も、大きな山行を可能とさせていただいて、感謝しています。ぜひ皆さんにも、「無事でよかった」だけでなく、気になった点など指摘していただければと思います。

---

No. 2285 投稿者：尾崎 4 7 期 - 2007/01/17 (Wed) 22:37:28

結局、現場での判断は難しいのですが、今回は幸運が重なったわけで、有意義に反省し、次に生かしたいものです。6 日の下山自体は、積雪 10-20cm 程度なので、それ以上の状況悪化の前に下山の判断は良かったと思います。雪崩れたところは、最も傾斜が強かった地点です。夏道に行くか、尾根に行くかについては、判断が難しかったのは事実だと思います。

さらに考えたことを追加します。

●天候の判断について

1/4 に悪沢北尾根で作成した天気図からは、6 日の悪天はそれほどでもないように感じられた。で少し安心してしまふ。ただし、最後の等圧線をうまく聞き取れず。5 日は赤石を往復し、テン場に戻ったのは 16:40 でしたので、天気図は取っていません。

しかし、入山前から 6 日の悪天がある程度予想されていたし、下降ルートのリスクは地図で判断できたのだから、5 日の昼間から行動中で完全に聞き取れなくても、毎時 50 分の天気予報を聞くことはできたはず。午前 11:50 など。赤石往復に入ってから、日没前の帰幕が第一ですが、赤石登頂は 15:30 だったので、下山中に 15:50 頃聞くことはできた (16 時の気象通報ではなく)。

今回は、そのことを考えもしなかったです。実際にやる、やらないは別の話で、選択肢を持つことが大切だと思います。仮に低気圧の急速な発達を 5 日の行動中に聞き取っていれば、帰幕後その日のうちに、夏道経由 (まだ新雪はない) で 30 分もあれば、雪崩地帯は抜けることができたはずで。

●仮に尾根を行った場合、

高度計は尾崎が家に所有しているものの持参せず。高度計があればルーファイに役立ったと思います。GPS も有効でしょう。

以上、結果論に過ぎず、「れば」「たら」の仮定ですが、過去を検証し、いろいろな可能性を考えることは次の山行のレベルアップになると思います。皆さんの考えもお聞かせください。

---

No. 2286 投稿者：遠藤 彰 (26) - 2007/01/18 (Thu)

若干の補足です。

直接お話を聞いて、あの状況では判断ミスとまでは言えないのではないかと感じました。松本君も雪崩に巻き込まれたのがすぐにはわからなかったという事でしたし、仮に尾根道をいっても斜度によっては危険度があります。

ルートファインディングの「楽しみ」は減っても雪山での GPS は有効かもしれません。また、ビーコンは必要な数を購入しても良いと思います。

自分が雪崩の勉強をしていたのは、30 年も前のことなので、その頃は危険性の判断基準と「雪崩ひも」くらいしか対応のしようがなかったのに気付きましたが、数万円のコストなら必要なものは揃えましょう。ただ、ビーコンでも生存率が 30-40% くらいらしいので、まずは雪崩に巻き込まれないのが第一ですね。

---

## 0633 上越：土合・都岳連冬山レスキュー講習会

【期日】2007. 2. 17~18 【参加者】松本, 尾崎

---

土合山の家の周辺で、雪崩れの知識、遭難にあったときの対応など、2日間にわたり、しっかり勉強してきました。

埋没体験（雪崩に埋まった時の疑似体験）もやりましたが、雪崩れの恐ろしさをあらためて知った次第です。30cm の深さでも、脱出できずに死亡することがあることがよくわかりました。雪崩れの危険性が少しでもあるところには、ビーコン、ゾンデ、スコップは必携であることはしっかり認識してきました。

また、事故のあった八甲田山の分析も行いました。ここ1ヶ月半の気象条件（温度、積雪、日照時間 e t c）を見て、雪崩の危険性を判断するというものです。1月は積雪が少なく、ここ4日ほどの間に急激に積雪がありました。また、事故の起きた14日には、急激な温度上昇も見られています。

実際に大きな雪崩れ事故が起きていますので、その原因を指することは簡単です。でも、それを山行前にどれだけ行って、どう判断をするか、非常に難しい問題です。（松本）

---

## 0636 頸城/ST：大渚山～西稜線

【期日】2007. 3. 10~11 【参加者】松本, 尾崎

---

出発前の金曜の夜9時ごろに（以前一緒にスキーに行った）桑野さんから小谷温泉手前の土砂崩れ情報もらったことが決定打となり、結局、スキーを持って行って大渚山から西稜線を彷徨していました。

大渚山北面の滑りは面白かったです。雨飾は、私にとって、登ろうとしても必ず一筋縄では行かない山です。多く数えると、今回でこんなことは4-5回目くらいです。

土曜日は雨飾がでっかく見えていて残念でした。うまくすれば今日中に登ってある程度下っておけば大丈夫だったかも、と。でも、土曜の夕方天気図をとったら、不連続線が二段になっていて、これはあらかじめ予想できていたわけだから、土日の一泊山行なら（雨飾南尾根レベルのところに）入らないのが普通の判断でしょうね、ということに。

実際、日曜日朝には20cm以上積もっていて、時おり吹雪混じりでした。雪質も旧雪の上に積もっていて悪く、標高が上がればもっと状況は悪いはずと思って気持ちを収めました。下りついた大網は、原風景のような集落でした。

なんだかんだ言って面白い山行でしたね。

---

## 0637 上州/ST : 武尊山～川場谷

【期日】 2007. 3. 21   【参加者】 青谷, 尾崎

---

川場スキー場リフト終点 8:40-3P-沖武尊 11:48~12:30-尾根取り付き 13:40~14:00-ゲレンデ  
15:40

快晴、周囲の山々を見渡しての快適な尾根登高。最短距離で山頂に至る。山頂より川場谷めざして標高差600mの大滑降。新雪に足をとられながらも、しっかりシュプールを刻んできました。沢筋より尾根の登り返しは少し疲れたけれど、スキー場を最大限活用して武尊山の核心部をたどる充実の1日でした。上越の山々の大展望はアルバムでどうぞ。



## 0638 北アルプス：遠見尾根～五竜岳

【期日】2007. 3. 31～4. 1 【参加者】松本, 尾崎

3/31 アルプス平 9:15 - 10:28 小遠見・中遠見の鞍部 10:45 - 11:38 大遠見山 - 13:10 西遠見・白岳鞍部

ムーンライト信州で神城下車。遠見スキー場のテレキャabinを降りたときには視界はなかったが、しばらくすると高曇りとなる。アルプス平でワカンをつけて出発。先行トレースはほとんど消えているが、雪はそこそこ締まっているので問題ない。ただし天候だけは下り坂であり、大遠見山の頂上でガスに巻かれ雪となる。その後も天気は悪化を続け、幕営予定の西遠見手前で適地を見つけられず登ってしまう。西遠見を過ぎると尾根はやせて右側（北）に雪庇が出ている。積雪も場所によって20cmもないところ、3m近いところと変化が激しい。時間もあるし今夜は天気も悪そうなので、雪洞を作る。ゾンデ棒を使い、雪庇に注意して場所を選ぶ。1時間弱で立派な快適な雪洞が完成。16時ごろから激しい雷雨となるが雪洞なので関係ない。オレンジ色の稲妻が夜遅くまで鳴りつづけ、大粒の雹も降った模様。踏み抜かれないうように、雪洞の存在をしらせるためのゾンデ棒は刺しっぱなしだ。これが災いせんことを祈るのみ。

4/1 発 5:25 - 6:35 五竜山荘 7:10 - 9:00 五竜岳 - 五竜山荘 10:00 - 11:07 雪洞 11:25 - 12:58 中遠見山 - 14:25 テレキャabin上

翌朝は強風だが好天。稜線の旗雲も間もなく取れるだろう。最初からアイゼンで白岳の斜面に取り付く。五竜山荘のコルは西風の吹き抜けとなっていて、小屋影で何とかハーネスをつける。ここで先のルートをよく観察し、少し緊張してアタック開始。上部で風は弱まるが、黒部側にカリカリ急片斜面が連続する。右利きにはかなり怖い。登りはほぼ稜線伝い。夏道では巻きとなる G2 頂上の黒部側の下りトラバース。フラットフットイング・スリーオクロック・フロントポインティングを使い分ける。これも限界でダブルアックスを多用する。頂上直下の小広場でレスト。最後の雪壁はすっぱりと雪崩跡が残り、その左を直登は雪に亀裂があって緊張した。

下降ルートは登りと少し違うルートをとる。登りで直登した G2 は手前からバックステップで黒部側に降りてトラバースした。五竜山荘まで緊張の続く下りだったが、白岳を越えると風は止み、雪も緩んで暑い。雪洞で荷物を回収し、ゆっくり下山した。カクネ里はデブリで埋まっていた。最後は雪が腐ってラッセル状態。ワカンをはずしたり付けたり、気合の足りないノロノロ下山でした。



五竜岳頂上



カクネ里と鹿島槍



登頂記念

## 2006 年度 個人山行記録

### 【個人山行報告】

山行後または総会前に報告を受けた山行

#### 橋本 章 氏(12 期)

##### ⑨ 2006. 04. 14 (金) 丹沢檜洞丸 (1601m) (s)

西丹沢からツツジ新道を往復。コースタイム 5:30、所要 4:15。石棚尾根からの分岐点上部の稜線は雪は無く、早くもバイケイソウの新芽が一斉に出ていた。

##### ⑩ 2006. 04. 18 (火) 毛無山 (1946m)、大見山 (1959m) (s)

朝霧高原の麓部落 P 着 06:20。4℃、快晴だが富士山がかすんでいる。黄砂らしい。06:35 出発。この山は急登の連続である。～合目の道標は標高が約 100m おきにつけられている。毛無山山頂着 09:16。絶景の筈の富士山が黄砂で見えない。頂上で小休後、北に向かい、大見山に向かう。稜線東面にあるルートは雪は無く、麓部落が眼下にみえ美しい。西面は雪があり、凍結しているところもある。最近は人があまり入っていないらしくトレールは薄い。大見山山頂は見過ごしそうな地点にあり、ここからさらに北方のタカデッキ方面縦走路はトレールが殆ど無い。10 分くらい進むが、そこで引き返す。下山は 1 ピッチ。P 帰着 11:30。コースタイム 6:30、所要 4:55。

##### ⑪ 2006. 04. 28 (金) 滝子山 (1620m) (p, 4 人)

滝子の道証地蔵まで大月からタクシーで入る。9:50 着。10:00 出発。すみ沢右岸を緩やかに登ってゆく。道標はしっかりしており、地図にあるほど道が錯綜していない。標高 1000m 位でトウゴクミツバツツジが咲き始めている。スマレが満開で、3-4 種類ある。大谷ケ丸との分岐点あたりから西に南アルプスの白い峰々が見え始める。滝子山頂上着 12:47。下山は檜平（女坂経由）を経由して順調に下山、初狩駅着 15:30。駅裏の八幡荘で温泉とオデン、赤カブ、地酒笹一を楽しんだ。

##### ⑫ 2006. 05. 01(月) 千頭星山 (2139m) (s)

急に鳳凰三山が見たくなり、甘利山経由で千頭星山に向かう。甘利山への登山入り口広河原 P は少し風があるが快晴、気温 13℃、やや黄砂が舞っている。周辺は高山植物の宝庫らしく初夏の頃に又来てみたい。07:20 出発。甘利山から南の櫛形山が黄砂のため霞んで見える。正面に着雪した千頭星山が見える。縦走路から少し外れたところに奥甘利山 (08:01 着) があるが眺望は悪い。大西峰の手前からはカラマツ林に入るが積雪 30-60cm で凍結しているためアイゼン着用。カラマツを通り抜ける風が強風が変わってきた。頂上

下部 100m 位は急斜面でラッセル必要。09:06 千頭星山着、頂上からの眺望は殆どない。少休後すぐ下山開始。頂上から急下降した大西峰手前の平坦な場所で、突如冠雪した鳳凰三山が見え出したので、三脚をたてゆっくりカメラにおさめた。コースタイム 4:20、所要 3:25。

⑬ 2006.05.19 (金) 扇山 (1138m) (p、4人)

知人3人と出かける。中央線鳥沢駅から入山。湿度が高い。新緑がまぶしく、大久保の科尔は絵に描いたようなすばらしい所だ。帰途は君恋温泉に立ち寄ったが、ここで出してくれたタケノコシイタケ煮つけは旨かった。また、旧甲州街道犬目宿の何となく懐かしい雰囲気堪能した。

⑭ 2006.05.25 (木) 八紘嶺 (1918m) (s)

安倍奥の最高峰山伏に行く予定が、安倍峠不通で急遽八紘嶺に変更。安倍峠の身延側 200m 下位のゲートから出発 07:52。野鳥が多い。急坂が多いがシロヤシオとアカヤシオが満開ですばらしいコースだ。小さなピークをアップダウンを繰り返しながら登り、09:32 山頂着。頂上からは、雨畑川の向こう側に布引岳と策ヶ岳が、その後方に南アルプスが見える。反対方向には富士山が霞んでいる。10:58 ゲート前帰着。

⑮ 2006.06.19(月) 越前岳 (1504m) (s)

先週西朋 12 期の桑田さんご夫妻に案内され、越前岳の登山口まで行きましたが、雨のため登山中止となり、今回、梅雨空の合間、好天となったので急遽出かける。すばらしい富士山の眺めとコースに咲くサンショウバラの甘い香りが印象的でした。

⑯ 2006.06.29 (木) 坪山 (1103m) (p、4人)

上野原駅の北方に、未だあまり紹介されていないが坪山という山がある。ツツジの名所ようです。タクシーで御岳神社から入るが、1100m そこその山にもかかわらず、急登の連続で、また、梅雨の中休みの好天で気温・湿度も高く、さらに下降コース(阿寺沢)も急下降で幾分へばった。下山後、三頭山荘の湯にイモガラとヌカミソキャベツの油炒めが救いだった。

⑰ 2006.07.12(水) 北奥千丈岳 (2601m) (s)、金峰山

早朝 3:50 に車で出発。蒸し暑い。事前に鶏冠山林道が通行不可は確認済み。焼山林道から川上牧丘林道は初夏の緑がまぶしい。大ダルミ峠小雨、やや強い風あり。07:26 ポンチョで東に向かう。07:55 前国師岳着。南方に富士山が望める。08:03 北奥千丈岳着。08:16 国師岳着。ここから天狗岩方面への下降を開始したが、トレールは薄く、両側からブッシュがかぶさり、これらを払いのけながら進むが、雨滴と多量のハエ・ウンカに悩まされ、や

むなく下降を断念。引き返し、国師岳付近で休息、付近にはゴゼンタチバナとマイヅルソウが咲いている。再度大ダルミに戻り、金峰山に向かう。オオダルミ小屋付近にはクリンソウとシロバナのクリンソウが咲いていた。朝日岳まではオオシラビソ、シラビソ、トウヒ、ダケカンバが見られるが、やはりウンカ、ハエが多い。11:32  
金峰山着。ガスの中に富士山と瑞牆山と小川山が見え隠れする。大ダルミ帰着 13:05。金峰山付近にコイワカガミが咲いていた。

#### ⑱2006. 08. 03(木) 富士山 (3776m) (s)

この山の魅力はどこにあるのか。新5合目須走り口 P 05:42 出発。快晴無風だが、雲海で周囲の山は何も見えない。イタドリ(2種あり)が満開。金明水 10:39 着。お釜内部は残雪あり。昼食、写真撮影後、下降開始。新5合目 P 帰着 12:35。標高差 1000m の砂走りの下降はきついが山頂から新5合目 P まで1ピッチ。コースタイム 8:20、所要 6:53。

#### ⑲2006. 08. 19(土) 木曾御嶽山 (3067m) (s)

車で前日に黒澤口に宿泊。8月19日、07:30 黒澤口の中の湯6合目小屋出発。晴れだが展望はよくない。8合目女人堂 09:03 着。ここより右手のコースをとり、三の池に向かう。途中幅約 15m の雪渓を横断、この辺りは高山植物が豊富ですばらしい。三の池避難小屋着 10:40。ガスが濃く三の池が見えない。この辺りイワギキョウが多い。12:28 剣が峰着。頂上は行者さんが多く、早々に退散した。途中二の池が見える場所で昼食、以降1ピッチで6合目 P に帰着 14:29。コースタイム 8:05、所要 : 6:59。

#### ⑳2006. 08. 21(月) 越百山、南駒ヶ岳 (28141m) (s)

前日の木曾御嶽山に引き続き、今回の主目的、南駒ヶ岳に向かう。翌日の 08. 20(日)に、JR 須原駅の先で伊那川をさかのぼる。伊那川ダムの奥の今朝沢橋が出发点 P。P 場は既に20台位の登山者の車が駐車。ヤブ蚊の大群が歓迎してくれた。06:55 P 出発。07:30 福栃平着。ここから左手に 5h30m で南駒ヶ岳への直登ルートがあるらしいが、地図は正確さを表記していない。右手の越百山方面に入る。08:15 下のコル着。08:41 上のコル着。遠見尾根に入る。09:35 御岳見晴台着。急登の連続である。中版カメラの重さが身にこたえる。ここから約 20 分位で「上の水場」に着く。この水場はすばらしい。水のうまさに加え、付近の高山植物のカニコウモリとミヤマトリカブトも。さらに急坂が続く、一つのピークを過ぎて下降が始まると、そこに越百小屋がある。11:00 着。小屋で、今日、南駒ヶ岳から降ってきた人の話を聞いたところ、南駒ヶ岳からの福栃平への直接下降ルートがあるとのこと。翌日はこのルートで下降する予定を立て、付近の地形など地図上で綿密に研究した。翌日早朝から雨。21日(月) 05:32 出発。上だけ雨具着用。たちまち下半身がルート上のハエマツなどの雨滴でびしょぬれ。靴の中は水が一杯。06:14 越百山着。北方の仙涯嶺、南駒ヶ岳が大きい。特に右手の仙涯嶺の岩峰が不気味。南方はガスで見えず。仙涯嶺まではハ

エマツ帯のアップダウンで、途中はトウヤクリンドウが極めて多い。仙涯嶺山頂らしきところに朽ちた表示の木がたっているが、不明、07:27 着。ここからアップダウンがきつくなり、南駒ヶ岳の手前の小ピークに到着、これを頂上と勘違いし（この時間、ガスが濃かった）、ここから、福柵平への下降ルート探索にかなりの時間とエネルギーを消費した。地図では急下降の連続である。ガスが晴れた瞬間、南駒ヶ岳が北方にあり、急遽頂上を目指した。09:11 南駒ヶ岳山頂着。山頂からは明瞭な表示で福柵平方面の下降ルートが示されているが、これを降ると、すぐにルートが消える。下は岩場の急下降であり、危険を感じ（これまでに5本の下降ルートを探索し、疲労感がピークに達していた）、このルートを断念。越百山経由で下山することにした。今朝沢橋P帰着 14:42。タフな山であった。P場付近は再度猛烈なヤブ蚊の大群に悩まされた。

昨年 8 月末に日光女峰山でスズメバチに刺された記憶が強烈で、今年は 9 月の山行をひかえた。本来は 10 月の方がスズメバチが凶暴になるとのことだが……。また 10 月から山に行き始める。

#### No. 21. 2006. 10. 03(火)甲武信岳 (2475m) (s)

予定では、今日は松田さん、黒澤さんと丹沢の大室山に行く予定が天気不良で中止となり、急遽甲武信岳に出かけることにしたが、塩山付近で雨、行く手の西沢溪谷方面の山々は濃い雲。西沢のP場は閑散としている。深い霧雨。07:30 出発。ルートは暫く人が入っていないのか、クモの巣が多く閉口した。徳ちゃん新道に取り付くと間もなく、すぐ上をシカが猛スピードで横切った。気がつくと、シカの食害痕が多い。戸渡尾根分岐点 09:24 着。2111m ピーク着 10:08。稜線 11:02、木賊山 11:08 着、甲武信小屋を横目に甲武信岳 11:32 着。水師方面からの登山者 3 人に頂上で出合ったが、それ以外には全く人に出会わない。頂上で一瞬霧が晴れ、すばらしいナナカマドとモミジの紅葉が眼に入る。頂上で昼食し、すぐ下山開始。西沢P場帰着 14:19。登り 4 ピッチ、降り 1 ピッチ、所用時間 6 時間 49 分。

#### No. 22. 2006. 10. 08(日)蛭ヶ岳 (1673m) (s)

昨日は大風、今日は快晴、無風である。冬期往復可能かの偵察山行。丹沢水無川本谷の戸沢山荘近くのP場から出発 07:05。天神尾根に取り付く。塔の岳着 08:42。今日の塔の岳頂上からは空気が澄んでいるのか、すばらしい眺めだ。丹沢山 09:31 着。ここから先のコース上には多数のイワギキョウ(?)があり満開。不動の峰 10:03、棚沢の頭 10:10、鬼ヶ岩 10:26、蛭ヶ岳 10:46 着。天気はすばらしく、暖かい。東京の高層ビル群も見える。昼食後下山開始。戸沢帰着 13:52。登り 4 ピッチ、降り 1 ピッチ、所用時間 6 時間 47 分。この往復コースは所要時間や高低差など甲武信岳とほぼ同じだが、甲武信岳より楽である。標

高の違い（約 1000m）が影響しているのだろうか。

**No. 23. 2006. 10. 26 (木) 箱根明神ヶ岳 (1169m) (p)**

友人と計 5 人で、大雄山から明神ヶ岳、明星ヶ岳を縦走し、宮城野に降り、「勘太郎の湯」で汗を流す。明神ヶ岳で突然イノシシが 20m 位前を横切りびっくり。尾根筋は秋の草花、特にリンドウがすばらしかった。以上。

11 月は私事多く、全く山に入れなかった。12 月に入り再開。今年は暖冬といわれるが、雪は多い（太平洋側）。富士山も例年になく 10 月頃から冠雪し始めている。

**No. 24. 2006. 12. 01 (金) 杓子山、鹿留山(1632m) (s)**

今秋一番の寒さである。忍野地域は霜で真っ白、富士山が見事。鳥居地峠 08:00 着。駐車スペースあり。準備運動をして 08:10 出発。箱根の火災防止帯のようなコースだが、道はカヤトの急登で、下が深い霜柱のスベリ台状態で歩きづらい。08:47 高座山着。急登が続く。09:22 大権首峠着。09:50 杓子山着。二人の女性が頂上で昼食中。千葉から来たという。西から西北方面に白く南アルプス、左正面に富士山。写真をとりにすぐに鹿留山に向かう。下降後暫くすると右手に二十曲峠方面の分岐点あり。やや狭い尾根をアップダウンを続け 10:30 鹿留山着。頂上はブナの古木が二本、周りに雑木があり見晴らしはない。頂上も、風で吹き飛ばされていて山頂を降った所で標識を発見し、ここが頂上であることがわかった。鳥居地峠 12:02 帰着。登り 2 ピッチ、降り 1 ピッチ、所用時間 3 時間 52 分。

**No. 25. 2006. 12. 27 (水) 黒岳 (1988m) (s)**

大菩薩南嶺のこの山は湯ノ沢峠からのルートについて、夏のうちに偵察山行をしておいた。昨日関東南岸を通った低気圧で季節はずれの大雨があったが、今日は快晴、暖かい。天目山温泉上部の焼山川林道は 12 月から閉鎖中だが、工事があり、運よく通過できた。日川林道との Y 字路で林道は閉鎖されていたので引き返し、湯ノ沢峠登山口から登り始める 08:30。歩き始めて 15 分位すると、都留文科大学の 6 人パーティーが下山してきた。聞くと大菩薩から縦走してきたという。昨日の豪雨ではさぞ難儀したことであろう。大菩薩から牛奥ガンスリまでの稜線は着雪しているとのこと。09:08 湯ノ沢峠着。快晴だが低気圧の吹き返しの西風が強い。小休して白谷丸に向かう。ルートは深くえぐれ歩きにくい、雪はない。山頂は標識がはっきりしない。降りとなり、黒岳南面の美しい落葉樹林帯（ミズナラか）に入り、さらにカラマツ、ツガ林帯を抜けると黒岳である 10:03 着。見晴らしはない。予定では牛奥までであったが、西からの強風がさらに強くなり、ここで引き返すことした。平地になっている先の落葉樹林帯で風をよけて軽食をとり、写真をとって下山

開始。登山口帰着 11:05。登り 2 ピッチ、降り 1 ピッチ。所要時間 3 時間 45 分。冬季はこの大菩薩南嶺や、甲武信岳から南東に伸びる尾根筋は西～北からの強風の通り道のようなので、要注意。

以下は、西朋超 O B 会の先輩とご一緒にハイキングの記録

- ① 2006. 04. 24 (月) 湘南平下見 (松田さん、黒澤さんと)
- ② 2006. 05. 31 (水) 湘南平 (田中実さん、桑田さん他計 9 人)
- ③ 2006. 12. 08 (金) 箱根旧街道 (田中実さん、都築さん他計 11 人)
- ④ 2006. 12. 21 (木) 矢倉岳 (松田さん、黒澤さんと)

本年も山行報告を続けさせていただきます。昨年に比べ暖冬であることは実感します。西沢の広瀬湖は去年は全面結氷していましたが、今年は全くその気配がありません。瞬間的には -10℃などを記録しているのかもしれませんが、長続きしませんので、結氷に至らないのでしょう。(s は単独行、p は複数人での山行)

#### ①01 月 02 日 (火) 丹沢塔の岳 (1491m) s

毎年正月に塔の岳に登っている。書策新道に取り付く。ルートは南面し明るく、相模湾が新春の陽にキラキラ輝いているが書策小屋直前でシカの真新しい食いちぎられた下半身にであう。天神尾根経由で戸沢山荘に帰着。登り 2 ピッチ、降り 1 ピッチ、所用 3 時間 10 分。尾根筋は凍結しているが雪は全くない。蛭ヶ岳方面も雪が見当たらない。

#### ②01 月 19 日 (金) 雁峠 (1780m) s

笠取山を予定していたが、結果的に雁峠になった。出発の新地平は到着時は -6℃、昨年より暖かく、広瀬湖は結氷していない。亀田林道は逆に昨年とは違い積雪が多く表面がクラストし、歩くと足首くらいまで沈み、極めて歩きにくい。最初の 1 ピッチ目からアイゼンとスパッツ着用。トレールが次第に薄くなり、2 ピッチ目からは積雪 30-50cm でトレールが消える。林道終点から上はルートファインディングとラッセル (ヒザ位) でかなり時間と体力を消耗。平行している広川は昨年ほどの氷はなく、渡渉には問題はない。雁峠直下では所によりヒザ上 30cm までのラッセルで大幅に時間をロス。07:15 出発、雁峠着 10:45。笠取山は近いが、ラッセルが更に深く、ここで引き返すことにした。しかし、この峠は冬季は大変静かで美しい。登り 3.5 ピッチ、降り 1 ピッチ、所用時間 5 時間 45 分。

#### ③01 月 30 日 (火) 丹沢檜洞丸 (1601m) s

西丹沢から入る。ゴーラ沢からは、ヤブツバキ、アセピと淡黄色の頭状花序を残しているミツマタが目につく。暖冬とは言え、昨年と同様に標高 1000m 位から凍結ルートとなり、アイゼン着用。07:15 出発、09:32 頂上着。今日はすばらしい天気、南アから遠く北アまで見える。西丹沢帰着 11:19。登り 2 ピッチ、降り 1 ピッチ。所用 4 時間 04 分。

#### ④02 月 06 日 (火) 雲取山 (2017m) s

所畑 07:15 出発 (出発時-2℃)。ルートは雪がなし～凍結で、霜柱が 10-20cm、ボコボコになっている。七つ石入り口付近からは積雪があったが、トレールがはっきりしており、ラッセルは不要。11:00 頂上着。南アまで見える。所畑帰着 13:38。登り 3 ピッチ、降り 1 ピッチ。所用 6 時間 23 分。

#### ⑤02 月 19 日 (月) 今倉山 (1470m) s

道志の今倉山に登る。出発の道坂トンネルから頂上までは標高差約 450m、実所用時間は 49 分だが、急登である。頂上から西に向かい、赤岩まではルートが凍結しており、アイゼン着用。赤岩からの富士山と南アの眺めはすばらしい。下山の西ヶ原からパラジマ沢のコースは一部ルートが薄い但し標識だけはしっかりしている。道坂トンネル帰着 10:01。所用 2 時間 26 分。

#### ⑥02 月 27 日 (火) 雁坂嶺 (2289m) s

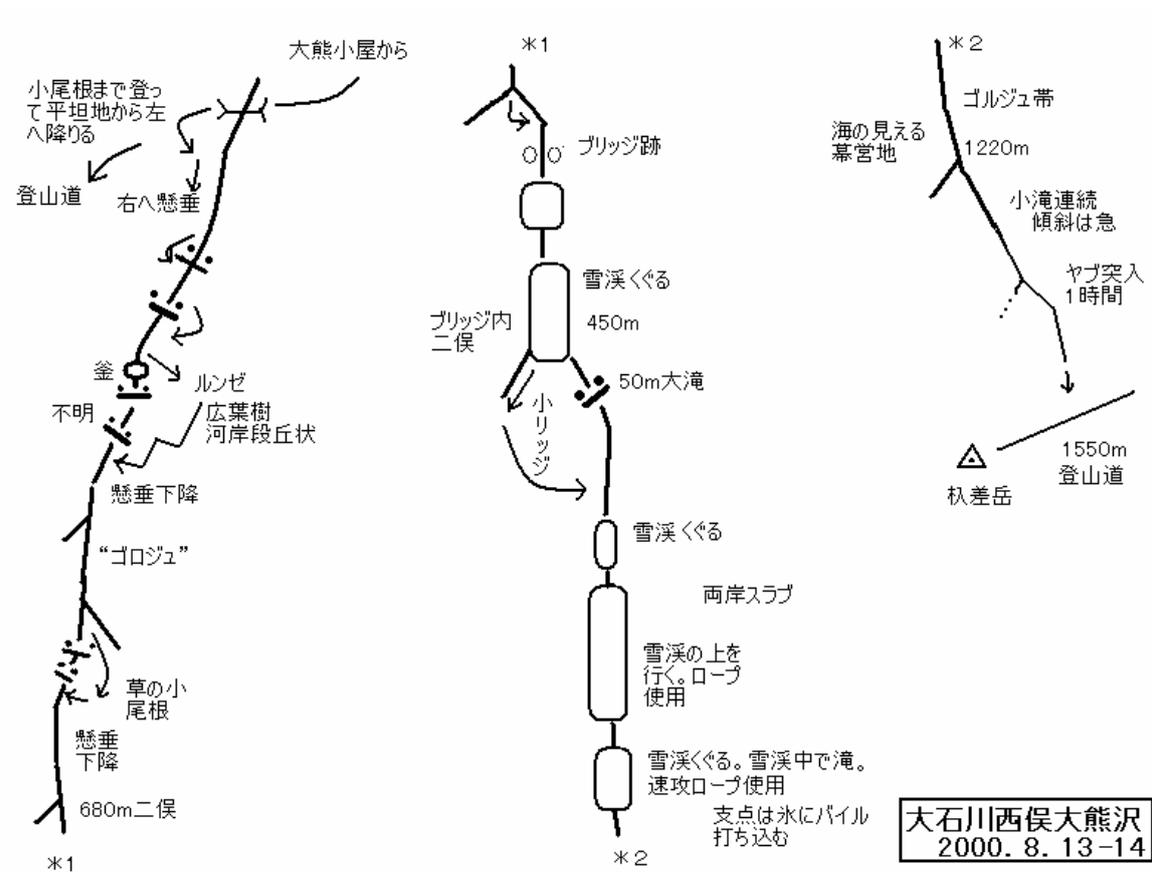
広瀬湖の雁坂峠入り口に駐車。07:45 出発。沓切沢橋までの林道は日陰で凍結している。沓切沢橋からアイゼン着用。ルートは積雪 30cm くらいでラッセル不要だが、ボブスレーのコースのよう注意。久渡沢は一部凍結しているが水流は豊富。左岸を登り、2 回ほど渡渉すると急傾斜が始まる。鮎沢の右岸を登るとコメツガやトウヒに混じってミズナラの林となる。10:26 雁坂峠着。ここから先の水晶岳、雁坂嶺方面のルートはトレールが全くない。峠から雁坂嶺までは標高差 200m。地形を頼りに雁坂嶺に向かう。すぐに深いラッセルが始まる。10 歩登るたびに小休止。何度か敗退を考えたが、登る意欲が打ち勝った。馬の背状の尾根上にはツガ、トウヒが多く、ラッセルは深い所で腰上である。最後の頂上直下に入ったとき、前方でカモシカがジットこちらを観察しているのに気がつく。すぐに走り去った。頂上に 11:36 着。しかし、なんと、先ほどのカモシカがすぐ近くにいてこちらを見ている。写真に収める。14:12 広瀬帰着。登り 3 ピッチ、降り 2 ピッチ。所用 6 時間 27 分。

**追 録**

0010 飯豊/WC：大石川西俣大熊沢～杵差岳～飯豊本山

大熊沢溯行図

記録文は西册 28 参照



## 西朋登高会 会則

1986年9月1日制定

2001年4月23日改定

## 第1章 名称・目的

第1条 本会は「西朋登高会」と称する。

第2条 本会はスポーツ精神を遵守し、会員相互の登山活動を協力して実践すると共に、西高ワンダーフォーゲル部の指導にあたる。

第3条 本会の事務局は、毎年、総会において定める。

## 第2章 組織・会員

第4条 本会の会員は、西高ワンダーフォーゲル部に在籍したもの、または有志で、総会で承認を受けたものにより構成する。

第5条 本会は次の役員をおく。

1. 会長……………会を代表し、事務局をおく。
2. チーフリーダー……………山行全体を掌握する。
3. 学生リーダー……………学生を中心とした山行を掌握する。
4. 会計……………財政を管理する。
5. 装備……………共同装備を管理する。
6. 記録……………山行記録をまとめ、会報および西朋通信を発行する。
7. 西高係……………西高ワンダーフォーゲル部を指導する。
8. ホームページ係……………西朋登高会ホームページを管理する。
9. 超OB係……………現役を引退したベテラン会員対象の山行を企画実施する。

第6条 前条の役員のうち、会長は総会にて選出し、他の役員は会長が指名する。

第7条 本会は4月に、会長が召集して総会を開く。

第8条 総会では、次のことを議事とする。

1. 前年度活動報告
2. 前年度会計報告
3. 新年度役員選出
4. 新年度活動計画
5. 新年度予算案
6. 新会員承認
7. 会の運営に必要な事項

第9条 本会は原則として毎月1会、チーフリーダーが召集して例会を開く。

第 10 条 例会では、次のことを議事とする。

1. 山行報告
2. 山行計画
3. 会の運営に必要な事項

第 11 条 本会は年 1 回、会員相互の親睦を図るため、西朋祭を行う。

第 12 条 本会には次の会員を置く。

1. 特別会員…西高ワンダーフォーゲル部の顧問を務め、本会に大いに言献した先生。
2. 一般会員（現役会員）…会の活動に関心を持ち、合宿山行や総会、例会及び西朋祭などに参加する会員。  
(会報、西朋通信などを事務局より送付する)
3. OB 会員…現在は会の活動から遠ざかっているが、総会や西朋祭に参加でき得る会員。  
(総会などの連絡・会報・西朋通信のみ事務局より送付する)
4. 超OB 会員…現在は会の活動から遠ざかっているが、総会や西朋祭に参加できる会員。  
(総会などの連絡・会報・西朋通信等、連絡不要の会員)

第 13 条 前条のOB 会員及び超OB 会員について、次の場合一般会員（現役会員）より移行する。

1. 本人の希望による。
2. 5 年以上連絡がない人は、総会での協議により、OB 会員とする。後に本人の希望により、一般会員に戻ることができる。

### 第 3 章 会費・会計

第 14 条 本会の運営のため、次のとおり会費を徴収する。

1. 一般会員（現役会員） : 年額 4000 円
2. OB 会員 : 年額 1000 円（数年分前納できる）
3. 特別会員・超OB 会員 : 会費なし

第 15 条 一般会員のうち、合宿山行などに積極的に参加する会員からは、装備費を別途徴収する。

第 16 条 会計年度は、4 月から翌年 3 月までとする。

第 17 条 会計は、普通会計と特別会計に分ける。

第 18 条 普通会計は、会費収入をあて、装備・会報発行・通信事務などに使う。

第 19 条 特別会計は、西高ワンダーフォーゲル部指導謝礼金および会費収入よりの積立

金および寄付金をあて、遭難対策基金とする。

#### 第4章 山行

第20条 本会は、次の合宿山行を持つ。

1. 新人合宿
2. 夏山合宿
3. 冬山合宿

第21条 会員は合宿山行の他に、各人の目的に応じて、個人山行を行う。

第22条 山行に前もって、計画をチーフリーダーに知らせる。

第23条 山行計画には、次のことを明記する。

1. 行程
2. 同行者
3. 最終下山予定日
4. 緊急連絡先
5. その他

第24条 山行後、山行報告を記録係に提出する。

#### 第5章 西高ワンダーフォーゲル部の指導

第25条 本会は、西高ワンダーフォーゲル部が安全かつ意欲的な活動を実践できるよう、部の顧問教諭と協力して指導にあたる。

第26条 西高係は、顧問教諭およびワンダーフォーゲル部員と密接な連絡をとる。

#### 第6章 装備

第27条 本会は共同装備を持ち、会員はこれを利用できる。

第28条 装備係は共同装備を管理する。

第29条 個人装備は各個人が負担する。

#### 第7章 遭難対策

第 30 条 会員が遭難したときには、一致協力して救助に努力する。

第 31 条 積極的に山行している会員は、山岳保険に加入する。

第 32 条 山岳保険金の使途に関する権限は、本会が有する。

第 33 条 遭難が起きたときには、会に遭難対策本部を設置し、会長は必要な係を任命する。

第 34 条 遭難救助に要した経費は、山岳保険金をあて、不足分は当事者が負担する。

第 35 条 会の遭難救助基金は、当座必要な費用の立替に使う。

## 第 8 章 会則の修正・改正

第 36 条 この会則の修正や改正は、総会で議決する。

## 第 9 章 施行

第 37 条 この会則は、2002 年度の総会后より施行する。

## 西高ワンダーフォーゲル部 活動記録

### ● 2004 年度

- 5月 新歓 丹沢大山 日帰り
- 6月 大菩薩 1泊
- 7月 雲取山 1泊
- 8月 夏山合宿 北アルプス 常念岳～蝶が岳 4泊5日
- 11月 秋山山行 御前山日帰り
- 3月 春山山行 高水三山 日帰り

### ● 2005 年度

- 5月 新歓 台風のため中止
- 6月 大菩薩 1泊
- 7月 雲取山 1泊
- 8月 夏山合宿北アルプス 白馬雪渓～杓子岳往復～樽池

### ● 2006 年度

- 5月 13日 新歓 仏果山・高取山
- 6月 10日 大菩薩峠 1泊
- 7月 権現岳 1泊
- 8月 1～5日 夏山合宿 北アルプス 燕岳～蝶ヶ岳
- 10月 24日 高水三山
- 11月 18日 箱根金時山
- 12月 23日 日和田山物見山
- 3月 17日 伊豆が岳
- 3月 28日 奥武蔵破風山

## 西朋 29 編集後記

誰もが多忙な日々を送っている現代。がんばらなければ登れない。山をやるのは大変だと思ふ部分は、確かにある。

それでも、山に登るのは楽しい、と断言したい。人間は地球上の小さな動物に過ぎない。ヒトと自然の差は圧倒的だ。生還するため、そしてそれを極力快適に実現するために、考え工夫すること、会心の山行をめざして積み上げる創造の喜びが山にはある。自然にわが身を委ねる分、ヒトにもともと備わっていた機能が刺激され、本能がくすぐられるのだろう。そんな微力な人間が、大地を傷つけ地球を蝕む現実もまた、山をとおして実感する。

ある時、自分がどんな登山をやりたいか、その方向性を考えることは意義のあることだと思う。私は、素朴に、そして原点を忘れることなく、山中を自由に巡るような登山をやってゆきたい。そして、登山の本質とは何か、焚き火でもしながら語り合いたいものである。山行の良きパートナーである皆さんに深く感謝いたします。

47期 尾崎 宏和

**西朋登高会ホームページ** <http://www.seihou.cside.com>

本会報に非掲載の写真アルバム、「西朋」「彷徨」バックナンバーを閲覧できます。会員専用ページから掲示板・アルバム編集ページ・備品リスト・Web名簿などが利用できます。

## 西朋 29

2008年6月発行

発行者 西朋登高会（会長 遠藤 彰）

発行所 船橋市南三咲 1-10-48

遠藤 彰 付 西朋登高会

編集者 尾崎 宏和

印刷所 U-POC